

かべばり ぎほう もくじ 壁張りの技法 目次

- | | | |
|------|-------------------------------|----------------------|
| 1 . | かべばり ぎほう ぜんぺん
壁張りの技法・前編 | がぞう
画像 No.1～15 |
| 2 . | じぜん じゅんび
事前の準備 | がぞう
画像 No.16～18 |
| 3 . | げんば とうちゃく まえさぎょう
現場と到着・前作業 | がぞう
画像 No.19～28 |
| 4 . | したじけんさ したじちようせい
下地検査・下地調整 | がぞう
画像 No.29～57 |
| 5 . | はりかえ
張り替え | がぞう
画像 No.58～61 |
| 6 . | したばりせこう
下張り施工 | がぞう
画像 No.62～67 |
| 7 . | せっちゃくざい
接着剤 | がぞう
画像 No.68～70 |
| 8 . | けいかく だんどり
計画と段取り | がぞう
画像 No.71～72 |
| 9 . | せこうわりつけ
施工割付 | がぞう
画像 No.73～82 |
| 10 . | めじ おさまり
目地の収まり | がぞう
画像 No.83～90 |
| 11 . | さいすん さいだん
採寸と裁断 | がぞう
画像 No.91～103 |
| 12 . | うわばりせこう
上張り施工 | がぞう
画像 No.104～137 |

壁張りの技法

画 像

解 説

1



この映像は、壁張り業務に従事する私達が、プロとしての壁張りの技法を研究するために製作したものです。これから施工者となる人も、すでに経験豊かなベテランも、壁張りの正しい基本を身につけ、各自の技術を高めるように心がけてください。

2

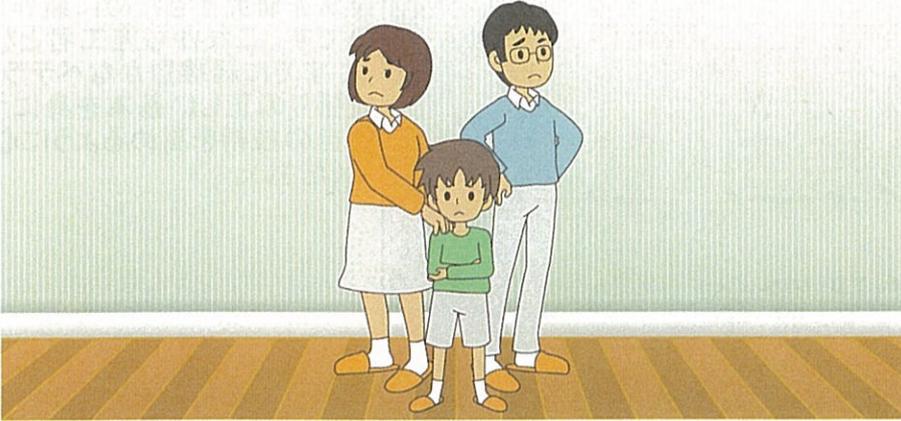


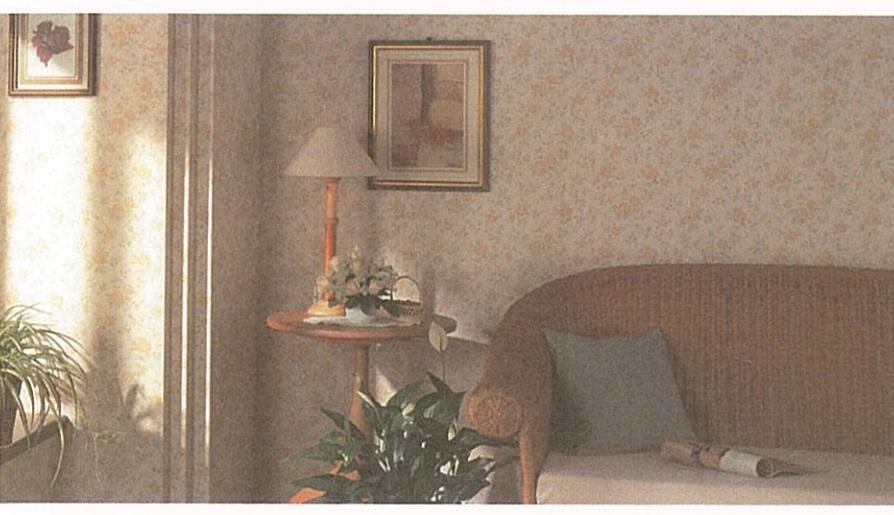
壁紙は、紙、織物、塩化ビニル樹脂、プラスチック、などさまざまな素材からつくられています。そして、その表現するデザインは、色・柄・質感など実に多種多様なものがあり、好みのインテリアを自由に演出できる素晴らしい材料です。

3



部屋の天井、壁などに壁紙を張ることにより、その空間は、たちまち壁紙が表現するデザインの世界に変貌します。

	画 像	解 説
4		<p>壁や天井は、室内の広い面積を占め、人の目が、常に、自然に向くところです。この部分の表情は、無意識のうち人の心に、大きな影響を与えます。その意味でも、又インテリアの視点からも、壁紙は大変重要視されている内装仕上げ材です。</p>
5		<p>美しいインテリアをつくり、居住環境にも大切な役割をになう壁紙ですが、これを本当に活かして使うには、その壁紙の良さを十二分に発揮させる、確かな施工技術と、確実な施工が欠かせません。</p>
6		<p>また、室内の仕上には、防火上の規制や、ホルムアルデヒド発散の規制など、住む人の安全と健康を守るための法令の定めがあります。これを守り、適切に仕上げるのも施工者の大切な役目です。</p>

	画 像	解 説
7	<p style="text-align: center;">防火施工管理ラベル見本</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%; text-align: center;"> <p style="font-size: small;">国土交通大臣の認定を取得した防火壁紙材料仕上げです。 認定番号NM-</p> <p style="font-size: large; color: red;">不燃材料</p> <p style="font-size: x-small;">〔基材との組み合わせによる〕</p> <p style="font-size: x-small;">日本壁紙協会 壁紙研究会 施工管理者</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%; text-align: center;"> <p style="font-size: small;">国土交通大臣の認定を取得した防火壁紙材料仕上げです。 認定番号QM-</p> <p style="font-size: large; color: green;">準不燃材料</p> <p style="font-size: x-small;">〔基材との組み合わせによる〕</p> <p style="font-size: x-small;">日本壁紙協会 壁紙研究会 施工管理者</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%; text-align: center;"> <p style="font-size: small;">国土交通大臣の認定を取得した防火壁紙材料仕上げです。 認定番号RM-</p> <p style="font-size: large; color: blue;">難燃材料</p> <p style="font-size: x-small;">〔基材との組み合わせによる〕</p> <p style="font-size: x-small;">日本壁紙協会 施工管理者</p> </div> </div>	<p>防火仕上の壁紙は、下地基材と張り合わせた状態で、不燃材料、準不燃材料、難燃材料などに国土交通大臣より認定されたものがあり、いかなる制限の厳しい場所にも対応できます。</p>
8		<p>ホルムアルデヒド発散の規制は、一部の壁紙を除けば、壁紙も施工用の接着剤も現在市販されている材料は、エフフォースターのJIS規格品か大臣認定品なので、下地材が規制を受けたものでない限りは、安心して適法な仕上げが行えます。</p>
9		<p>美しく、安全で、快適なインテリアをもたらす壁紙。それを的確に、仕上げるためには、どのようなことが必要で、また大切なのでしょうか。これから、その仕事の流れとポイントを研究してみましよう。</p>

画 像

解 説

10



まず私達は、建築家やデザイナーあるいは施主の方々から、壁張り工事を依頼され、材料の選定や見積りなどの相談に伺います。これが壁張り工事の始まりです。

11



営業担当者は、お客様のご要望を正確に理解し、使用目的、現場の状況と下地、ご希望の壁紙、工期などについてお打ち合わせし、正しい積算をして、お見積りを提出し、ご発注を頂いて、施工計画をたてます。

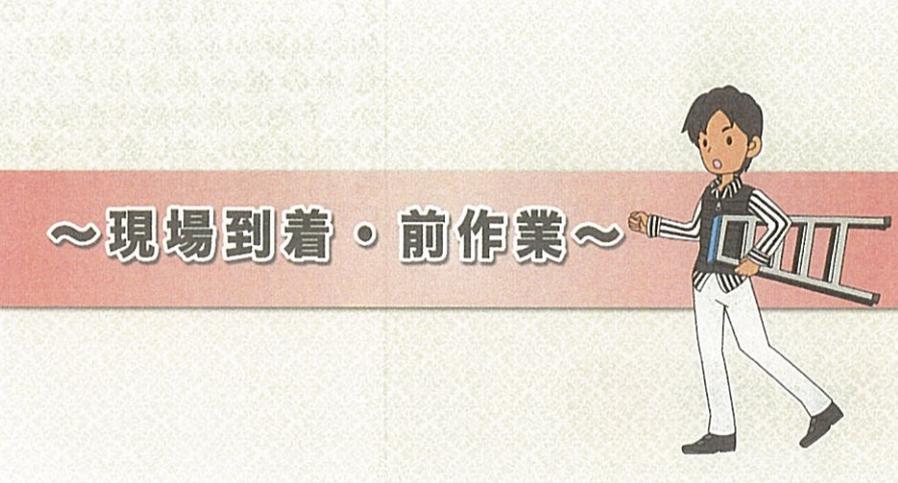
12



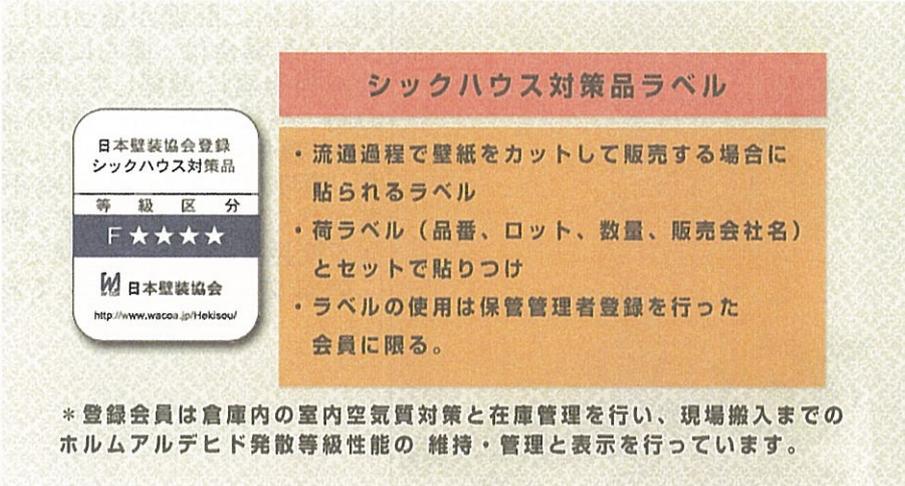
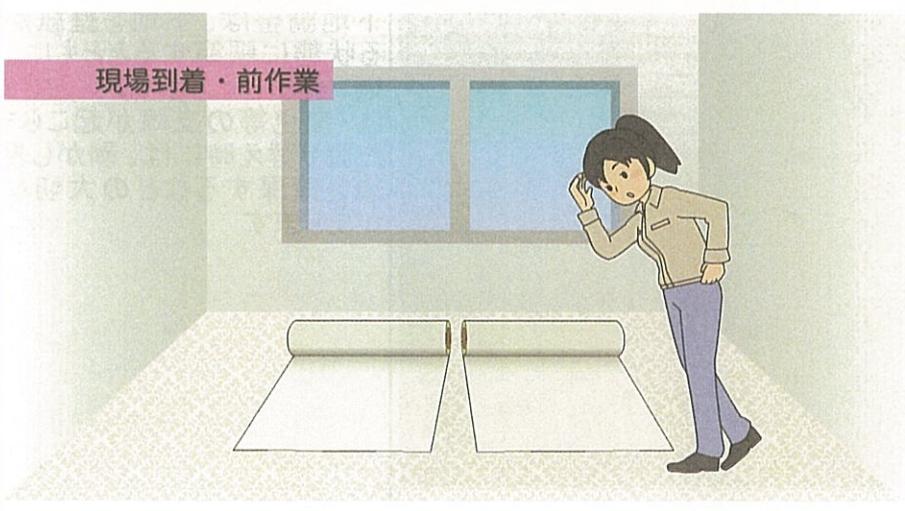
担当者は、実際に現場を見て、立地や場所、他の工事との工程などを確認します。

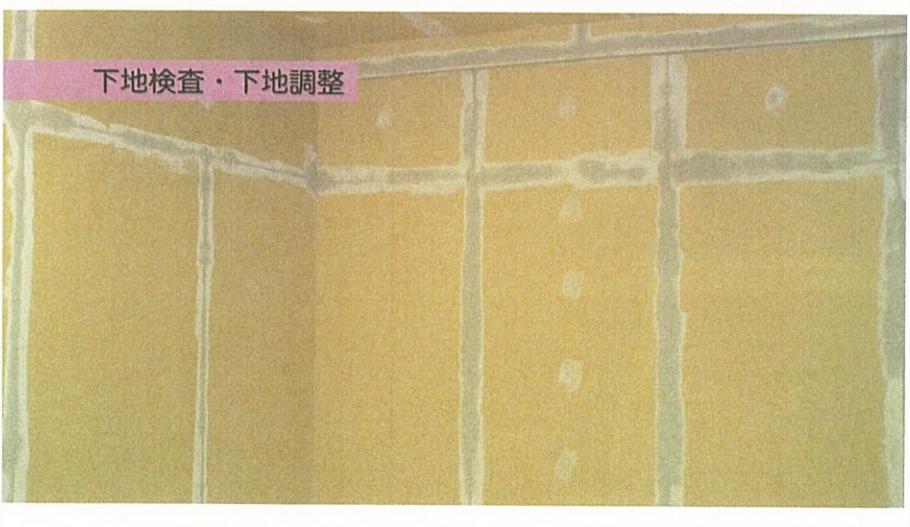
	画 像	解 説
13	<pre> graph TD A[下地] --- B[使用目的] C[材料] --- D[予算] B -.-> E[合わない場合] D -.-> E E --> F[下地の変更 下地の修正] E --> G[材料の変更 予算の調整] </pre>	<p>天井、壁下地はもちろん、扉枠、廻り縁など現場を詳しくチェックします。もし材料が現場に合わないような場合は、お客様と相談しながら材料や下地の条件を変えて頂くようお願いしなければなりません。</p>
14	<p style="text-align: center;">特に張り替の場合</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 既存の壁紙はきれいにはがせるか？ 2. はがした後の下地は <ul style="list-style-type: none"> ・下地材の種類 ・著しい欠陥、きれつ、剥離 ・凹凸 3. カビや水漏れのおそれはないか？ 	<p>特に張替えの場合は、壁紙をはがした後の下地がどのような状態であるかを見抜くことが大切です。下地によっては、壁紙をすぐに張れなかったり、たとえ張れても下地の欠陥などが大きく目立つようなことがありますから、よく確認してください。</p>
15	<p style="text-align: center;">作業指示書</p> <ul style="list-style-type: none"> 下地処理 壁紙の取り扱いの要点 施工上の注意事項 現場へのアクセスや駐車場 現場の規則 鍵・電気・水など 	<p>担当者は、施工計画にもとづいて「作業指示書」を作成し、施工技能者に引き継いで工事が正しく施工されるようにします。</p> <p>作業指示書は、顧客や建物の情報、工期などとともに、下地、施工材料、施工方法と施工に際しての注意点など技術的な指示や情報を伝えるものです。</p> <p>また、指示書には、現場へのアクセスや駐車場、現場の規則、必要によってはカギや電気、水などの状況も伝えるようにします。</p>

	画 像	解 説
16		<p>現場の技能者にとっては、事前の準備が大切になります。この段階をおろそかにすると、どんな施工者も、決して良い仕事をすることはできません。</p>
17		<p>まずは、作業の指示内容を確認します。</p>
18		<p>次に、機械や道具、材料、副資材を点検します。現場に入ってから材料が違うとか、副資材が足りない、道具を忘れたなどということがないようにしましょう。</p> <p>壁張り施工を合理化するために、このような糊付機械が作られ、今では従来に比べ大変精度も高く、省力化に欠かせません。こうした機械も使いこなし、プロの施工者としての判断力を付け加えることによって、より効率の良い、すぐれた壁張りの技法を完成させていくことができるのです。</p>

	画 像	解 説
19		<p>いよいよ現場に到着しました。現場に入った時には、まず施主や監理者に気持ち良くあいさつします。</p>
20		<p>また、仲間や他の業者へのあいさつも大切です。現場で本当に良い仕事をするためには、日頃からこのように仲間同士がスムーズに仕事ができるような環境を、自分自身でつくっていかなければなりません。</p>
21		<p>同じ現場でも、張替えのような場合には、住んでいる人、あるいは施主の方に対して、丁寧なあいさつが必要です。「オレは頼まれたから、ただ張りに来たただけだ」ということではなく、会社を代表する1人として紳士的に行動してください。</p>

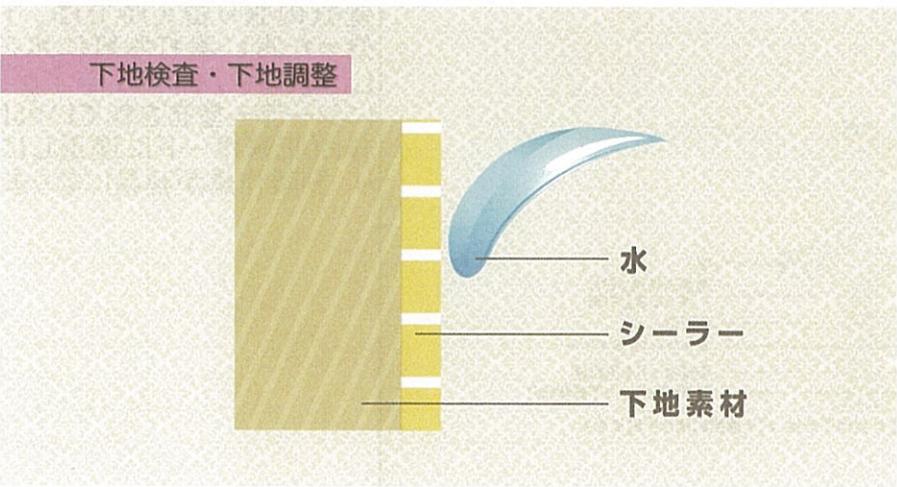
	画 像	解 説
22	<p>現場到着・前作業</p> <p>下地の状況</p> <p>他の工事の進み具合</p> <p>材料の問題 ●特性 ●数量</p> <p>予定通りに作業できるか？</p>	<p>さて、ここで現場についての総合的な判断が必要になります。他の仕事の進み具合はどうでしょうか。下地に思わぬ大きな欠陥はないでしょうか。もし直すべき点があれば、現場の監理者を通じて丁寧に頼まなければなりません。</p>
23	<p>現場到着・前作業</p>	<p>そして、ここでもう一度材料を点検してください。品番、数量に間違いはありませんか。</p>
24	<p>現場到着・前作業</p> <p>検知TAB保管上の注意 冷蔵所又は、冷蔵庫に保管（10℃以下）し、直射日光や高温多湿（20℃以上、80%RH以上）は避けて下さい。</p> <p>CAUTION STORE TAB. AT COOL, DARK PLACE OR REFRIGERATOR.</p> <p>RIKEN KEIKI</p> <p>MOCHO DETECTOR 50-500% RH 0-100% RH</p>	<p>シックハウス対策について、顧客より要望がある場合には、ご相談の上で、工事前の室内空気を測定し、施工後、同じように測定してその成績書を提出し、ご確認いただく必要もあります。</p>

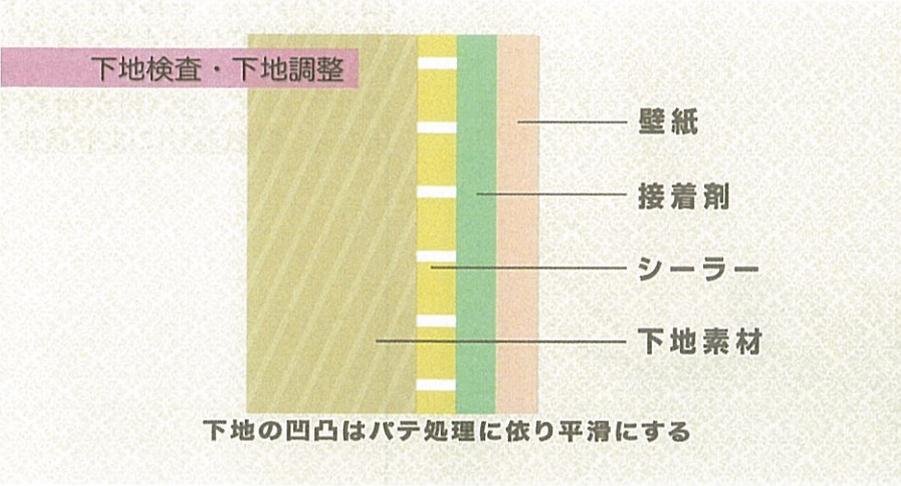
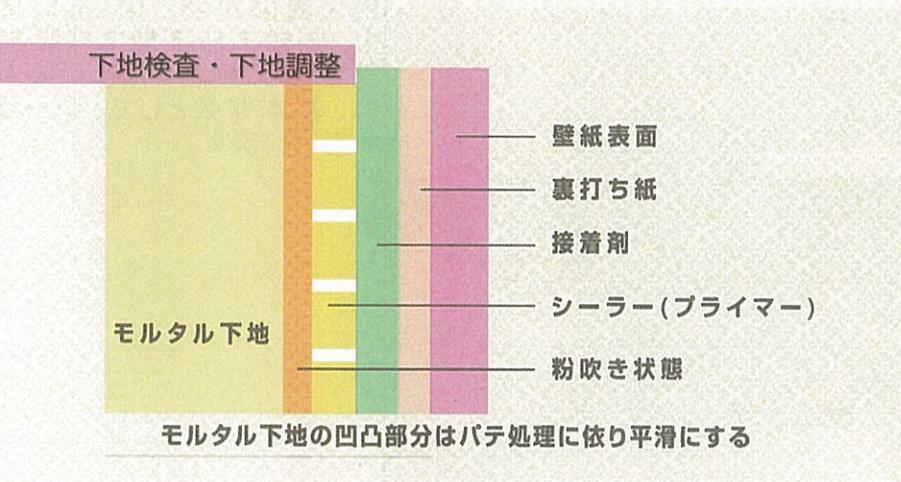
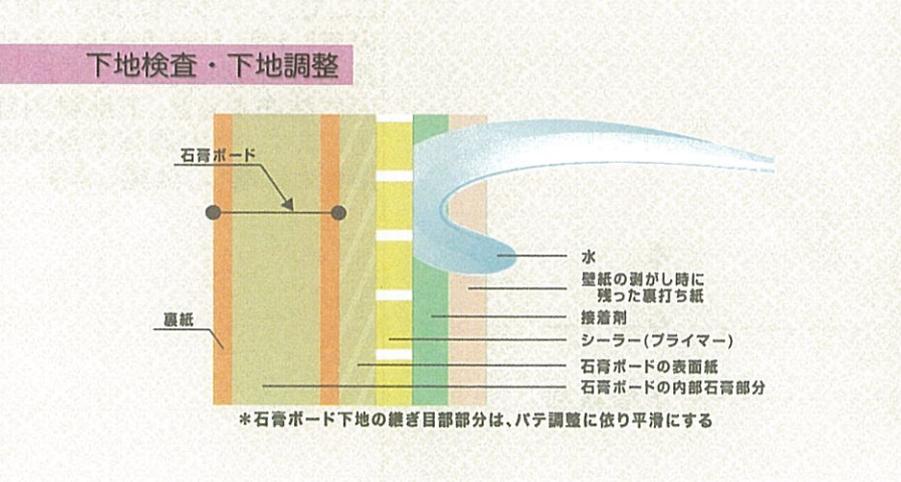
	画 像	解 説
25	 <p style="text-align: center;">シックハウス対策品ラベル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・流通過程で壁紙をカットして販売する場合に貼られるラベル ・荷ラベル（品番、ロット、数量、販売会社名）とセットで貼りつけ ・ラベルの使用は保管管理者登録を行った会員に限る。 <p>*登録会員は倉庫内の室内空気質対策と在庫管理を行い、現場搬入までのホルムアルデヒド発散等級性能の維持・管理と表示を行っています。</p>	<p>正しいシックハウス対策が行われたことを知っていただくために、材料に表示されているエフフォースターマークを写真に撮るなどして保管して下さい。</p>
26	 <p style="text-align: center;">チェックポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> シックハウス対策規格 F☆☆☆☆ 防火認定・性能 NM(不燃) / QM(準不燃) / RM(難燃) 壁紙安全規格 SV規格、RAL規格 キズ・ムラ・品質等 色むら、色違い、キズ、いたみ、汚れ、目曲がり、織り段、ほつれ、リピート、いんべん性 	<p>キズ、ムラ、色違いなども調べます。材料はこのようなことを注意しながらチェックしていきます。</p>
27	 <p style="text-align: center;">現場到着・前作業</p>	<p>色ムラや色違いは、このようにして調べます。直射日光の下では、色ムラはわからなくなりますから、北側の壁か床に広げて確認します。</p>

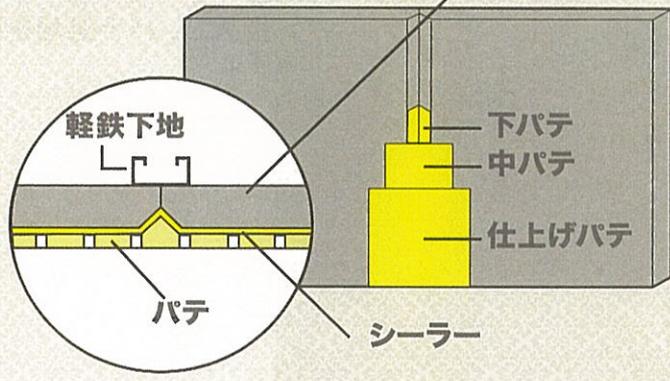
	画 像	解 説
28	 <p>現場到着・前作業</p>	<p>もし、材料に問題があったり、不足している場合は、直ちに会社又は営業担当者に連絡してください。この時、不足している材料の品番、ロット番号、数量を正確に伝えます。張り始めてから、材料不足に気がつくようでは困ります。糊付け機を使用する場合も同様で、事前に数量は必ずチェックしておきましょう。</p>
29	 <p>~下地検査・下地調整~</p>	<p>作業はいよいよ下地の検査と下地調整に進みます。「施工者は、下地や材料を確認し、壁紙に適した下地調整と下地調整剤が選べ、最適な接着剤の選択ができれば一人前」と言われるほど、この工程は大切です。</p>
30	 <p>下地検査・下地調整</p>	<p>下地調整は、下地を壁紙が張れる状態に調節するとともに、施工後、美しく仕上がり、目透き・剥がれ・変色等の支障が起こらず、また張り替え時には、剥がし易い状態を確保するなどの大切な役割があります</p>

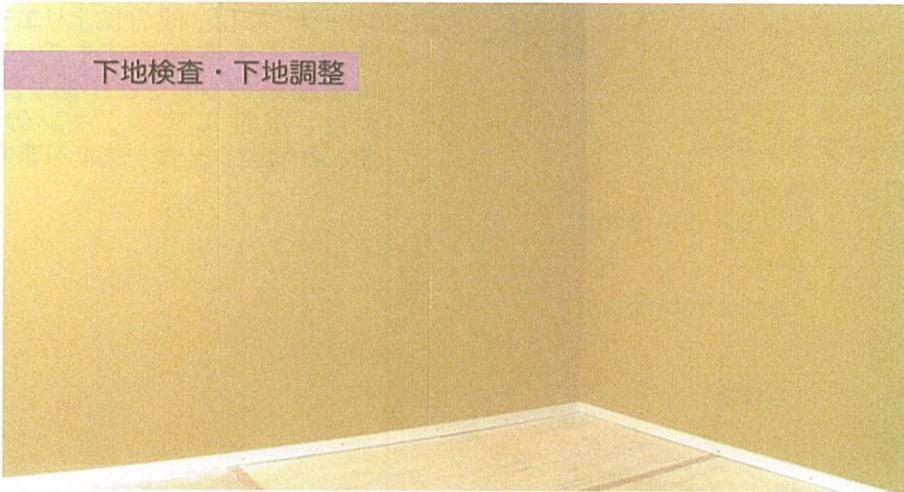
	画 像	解 説			
31	<p style="text-align: center;">下地調整の手順</p> <p style="text-align: center;">下地の検査 (下地の種類・状況の確認)</p> <p style="text-align: center;">下地の汚れ、異物の除去</p> <p style="text-align: center;">下地の補強、吸水性の調整 (シーラー処理)</p> <p style="text-align: center;">下地の平滑化 (パテ処理、サンダー処理)</p> <p style="text-align: center;">接着補強 (捨て糊)</p> <p style="text-align: center;">※その他の下地調整 アク止め、錆止め、防カビ処理など</p>	<p>下地調整の主な手順は、下地の汚れや異物を取り除く。下地を補強し、吸水性を調整する。パテ処理、サンダー処理により、下地を平滑にするなどです。</p>			
32	<p style="text-align: center;">下地検査・下地調整</p>	<p>下地面にサインペンやマジックインクなどの記入物がある場合は、そのまま壁紙を張るとこれらの色素が壁紙の表面に移行することがあるので、必ず記入物や色素を取り除きます、又ホコリや油類の汚れなども接着のさまたげになるので取り除いて下さい。</p>			
33	<p style="text-align: center;">下地検査・下地調整</p> <p style="text-align: center;">下地材の種類</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td style="background-color: #c0d0d0;"> <p>湿式工法</p> <p>コンクリート</p> <p>モルタル</p> <p>漆喰・プラスター</p> </td> <td style="background-color: #f0e080;"> <p>乾式工法</p> <p>石膏ボード</p> <p>珪酸カルシウム板</p> <p>合板(ベニヤ)</p> </td> <td style="background-color: #c0e0c0;"> <p>その他</p> <p>鋼製間仕切り壁</p> <p>鋼製建具</p> <p>その他金属下地</p> </td> </tr> </table>	<p>湿式工法</p> <p>コンクリート</p> <p>モルタル</p> <p>漆喰・プラスター</p>	<p>乾式工法</p> <p>石膏ボード</p> <p>珪酸カルシウム板</p> <p>合板(ベニヤ)</p>	<p>その他</p> <p>鋼製間仕切り壁</p> <p>鋼製建具</p> <p>その他金属下地</p>	<p>壁紙の下地基材には、湿式工法のコンクリート、モルタルや乾式工法の石こうボード、珪酸カルシウム板、合板などがあります。そのほか、可動間仕切りなど様々な下地があります。</p>
<p>湿式工法</p> <p>コンクリート</p> <p>モルタル</p> <p>漆喰・プラスター</p>	<p>乾式工法</p> <p>石膏ボード</p> <p>珪酸カルシウム板</p> <p>合板(ベニヤ)</p>	<p>その他</p> <p>鋼製間仕切り壁</p> <p>鋼製建具</p> <p>その他金属下地</p>			

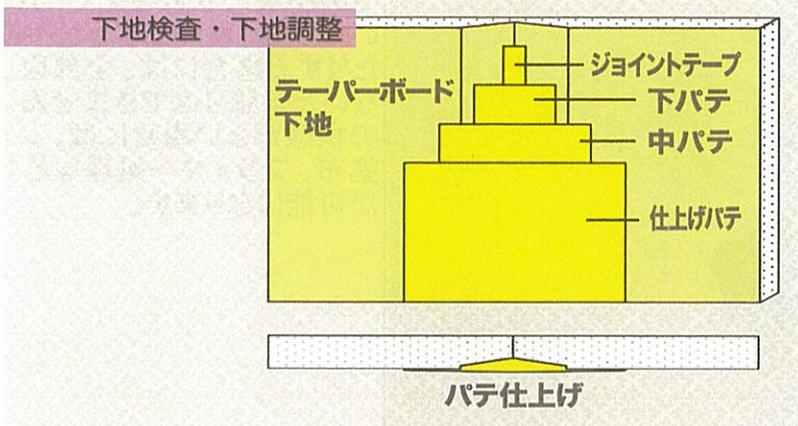
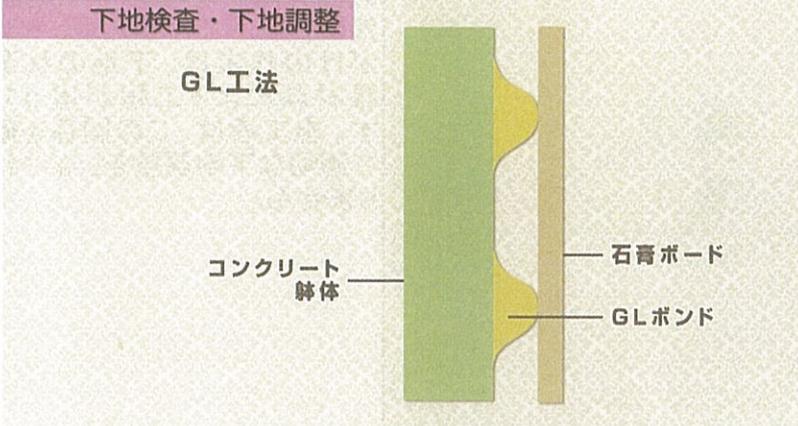
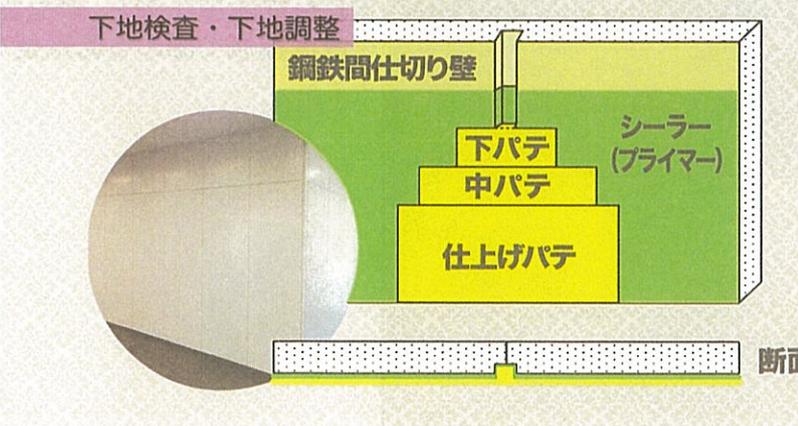
	画 像	解 説
34	<p data-bbox="150 365 501 405">下地検査・下地調整</p> <p data-bbox="507 443 703 472">改修工事の下地</p> <div data-bbox="269 506 935 748"> <div data-bbox="269 506 552 611">既存壁紙の張り替え</div> <div data-bbox="657 506 935 611">塗装面(ペンキ)</div> <div data-bbox="269 645 552 748">合板</div> <div data-bbox="657 645 935 748">和壁面(砂壁など)</div> </div>	<p data-bbox="1064 318 1516 421">改修工事では、既存壁紙の張替えや塗装面、化粧板などが下地となる場合があります。</p>
35	<p data-bbox="150 958 501 999">下地検査・下地調整</p> 	<p data-bbox="1064 896 1516 999">では、はじめに湿式工法のコンクリート・モルタルの下地について研究してみましょう。</p>
36	<p data-bbox="150 1518 501 1559">下地検査・下地調整</p> 	<p data-bbox="1064 1471 1516 1606">下地が乾燥していない状態では、壁紙は張れません。無理に張っても、剥がれたり、カビが発生する恐れがあります。</p> <p data-bbox="1064 1606 1516 1709">水分計などを用いて下地が十分乾燥していることを確認してください。</p> <p data-bbox="1064 1709 1516 1776">目安として水分計で8%を切っていれば施工が可能です。</p>

	画 像	解 説
37		<p>コンクリート、モルタルなどは、表面に粉が吹いたような状態になっていることがあります。手で表面をなでてみて、白い粉が付着するようなら、壁紙張りには不適當です。</p>
38		<p>例え表面が粉っぽくない場合でも、湿式工法下地では吸水性の調整やアルカリ分を抑えるために、基本作業として、シーラー塗布を行います。</p>
39		<p>ここで、シーラーについて研究してみましょう。シーラーは、合成樹脂系の下地調整剤で、下地材の表面に塗布すると、下地材内部に浸透します。その過程で合成樹脂は溶剤と分離し、造膜します。</p>

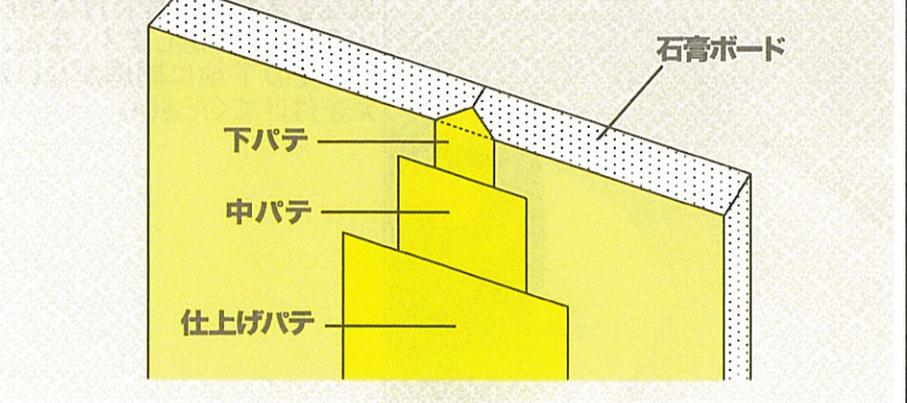
	画 像	解 説
40	<p>下地検査・下地調整</p>  <p>壁紙</p> <p>接着剤</p> <p>シーラー</p> <p>下地素材</p> <p>下地の凹凸はパテ処理に依り平滑にする</p>	<p>まず、吸水性の大きい下地では、シーラー塗布により、急激な下地の吸水が抑えられ、施工時に、煽りや柄合わせが容易になります。</p>
41	<p>下地検査・下地調整</p>  <p>モルタル下地</p> <p>壁紙表面</p> <p>裏打ち紙</p> <p>接着剤</p> <p>シーラー(プライマー)</p> <p>粉吹き状態</p> <p>モルタル下地の凹凸部分はパテ処理に依り平滑にする</p>	<p>また、粉拭きモルタル下地には、シーラー塗布により、下地内部に浸透し、下地を固めます。</p>
42	<p>下地検査・下地調整</p>  <p>石膏ボード</p> <p>裏紙</p> <p>水</p> <p>壁紙の剥がし時に残った裏打ち紙</p> <p>接着剤</p> <p>シーラー(プライマー)</p> <p>石膏ボードの表面紙</p> <p>石膏ボードの内部石膏部分</p> <p>*石膏ボード下地の繊維目部分、パテ調整に依り平滑にする</p>	<p>壁紙の張り替え時では、下地に残った古い裏打ち紙に水を塗布し、糊を戻して剥がしますが、事前にシーラー塗布されていれば、水分が石膏ボードに浸透しにくくなり、剥離作業が容易になります。</p>

	画 像	解 説		
43	<p data-bbox="159 369 502 403">下地検査・下地調整</p> <p data-bbox="470 436 758 470">シーラー・プライマー</p> <div data-bbox="247 481 965 772"> <table border="0"> <tr> <td data-bbox="247 481 582 772"> <p data-bbox="327 504 502 537">シーラーの成分</p> <p data-bbox="271 593 542 627">エチレン酢酸ビニル樹脂系</p> <p data-bbox="271 638 430 672">アクリル樹脂系</p> <p data-bbox="271 683 558 716">酢酸ビニル アクリル樹脂系</p> </td> <td data-bbox="630 481 965 772"> <p data-bbox="694 504 869 537">シーラーの分類</p> <p data-bbox="662 593 869 627">水性エマルジョン型</p> <p data-bbox="662 683 742 716">溶剤型</p> </td> </tr> </table> </div>	<p data-bbox="327 504 502 537">シーラーの成分</p> <p data-bbox="271 593 542 627">エチレン酢酸ビニル樹脂系</p> <p data-bbox="271 638 430 672">アクリル樹脂系</p> <p data-bbox="271 683 558 716">酢酸ビニル アクリル樹脂系</p>	<p data-bbox="694 504 869 537">シーラーの分類</p> <p data-bbox="662 593 869 627">水性エマルジョン型</p> <p data-bbox="662 683 742 716">溶剤型</p>	<p data-bbox="1069 302 1516 481">シーラーには、成分によりエチレン酢酸ビニル樹脂系のもの、アクリル樹脂系のものなどがあります。また、水性エマルジョンの型の他、溶剤型シーラーもあります。</p>
<p data-bbox="327 504 502 537">シーラーの成分</p> <p data-bbox="271 593 542 627">エチレン酢酸ビニル樹脂系</p> <p data-bbox="271 638 430 672">アクリル樹脂系</p> <p data-bbox="271 683 558 716">酢酸ビニル アクリル樹脂系</p>	<p data-bbox="694 504 869 537">シーラーの分類</p> <p data-bbox="662 593 869 627">水性エマルジョン型</p> <p data-bbox="662 683 742 716">溶剤型</p>			
44	<p data-bbox="159 929 502 963">下地検査・下地調整</p> <p data-bbox="630 929 853 963">珪酸カルシウム板</p> 	<p data-bbox="1069 884 1516 1131">次に、乾式工法の珪酸カルシウム板を研究してみましょう。この下地は吸水性が激しく、そのままでは、接着剤の水分を急激に吸い込むため張れません。そこで、図のように、シーラーを塗布してからパテ処理をし、壁紙張りをします。</p>		
45	<p data-bbox="159 1512 502 1545">下地検査・下地調整</p> 	<p data-bbox="1069 1456 1516 1668">合板下地では、木材のアクやヤニなどにより、壁紙張り後、変色する場合があります。事前にアク止め効果のあるシーラーを塗布した後、パテ処理をし、壁紙張りをします。</p>		

	画 像	解 説
46		<p>次に、壁張り工事で最も多い、石膏ボード下地を研究してみましょう。石膏ボードは、吸水性も理想的で、壁紙施工に最適な素材といえ、石膏ボード下地は、接着性、吸水性とも、壁紙施工に適しているため、シーラー処理をする必要はありません。ただし、将来、張替をするときの剥がし易さを確保するため、シーラー塗布をしておきます。</p>
47		<p>ボード類の出隅は、角がまっすぐに仕上がらない場合があるので、コーナー材やコーナーテープ等を挿入し、パテ処理をして仕上げます。</p>
48		

	画 像	解 説
49	<p>下地検査・下地調整</p> 	<p>テーパーボードの場合は、図のように、下パテ、ジョイントテープ、中パテ、上パテの順に下地造りを行います。近年はジョイントテープの代わりに、グラスファイバーテープを用い、その際は、下パテの前にテープを張り付け、パテ処理を行います。</p>
50	<p>下地検査・下地調整</p> <p>GL工法</p> 	<p>躯体に石膏ボードをGLボンドで直張りするGL工法下地は、湿式工法下地と同じで、十分乾燥させてから壁紙を張ることが必要です。乾燥不十分ではかびが生えて折角の美しい仕上がりがそこなわれます。又、乾燥期間が十分に取れない場合は、石膏ボードに直接、防カビ材を塗布する等の対策が必要です。</p>
51	<p>下地検査・下地調整</p> 	<p>金属下地の場合は、合成樹脂系接着剤を捨て糊した後、パテ処理等で下地調整します。下地に錆が認められた場合は、事前に錆を落とし、防錆処理を行ってから捨て糊する必要があります。</p>

	画 像	解 説
52		<p>塗装面に壁紙を張る場合は、ペンキの塗膜の状態を見て、老化していたり、塗料がこすった手についていたりする場合には、全部取り除かないと壁張りはできません。表面の状態がよい場合には、シーラー塗布、プライマー処理などで施工が可能になります。</p>
53		<p>石膏ボード継目の不陸箇所や、面の凹みなどを埋めて下地面を平滑に仕上げるパテ処理、サンダーがけの作業は、下地の状況と上張材料により工程が違ってきます。施工者は、この関係を確認して適切な下地調整をしなければなりません。</p>
54		<p>パテには半水石膏の水硬化を利用した反応硬化型と、無期充填剤を合成樹脂で固める乾燥型があります。</p>

	画 像	解 説
55	<p data-bbox="159 347 502 392">下地検査・下地調整</p> 	<p>硬化型は水と混練りあわせ、一定時間で硬化します。やせも少なく、深穴用など厚付けにも適していますが、水で練ってから所定の時間内に施工し終わらないと、パテが固まって使えなくなります。</p>
56	<p data-bbox="159 929 502 974">下地検査・下地調整</p> 	<p>乾燥型パテは、合成接着剤の配合も多く、下地への付着強さと表面の硬さが特長です。硬化は乾燥に従い固まりますので、水で練ったものを空気に触れないよう密閉して保管すればペースト状が保てます。硬化はやや遅く、やせも少し多めです。</p>
57	<p data-bbox="159 1489 502 1534">下地検査・下地調整</p> 	<p>下塗り・中塗りパテは、やせの少ない反応硬化型で、仕上げパテは現場状況や上張り材料に応じて反応硬化型と乾燥型を選定し使用するのが一般的です。</p>

画 像

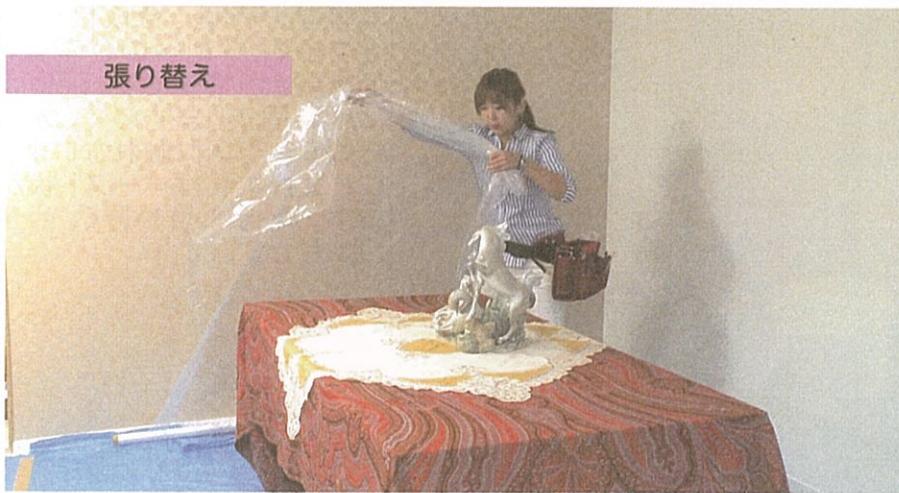
解 説

58



次に、張替えの場合について考えてみましょう。

59



張替えでは、室内の備品や器具類の片付け、移動が必要になります。お客様が大切にしている高価な家具や床などを汚したり、傷つけたりしないよう細心の注意を払い、しっかり養生しなければなりません。

60

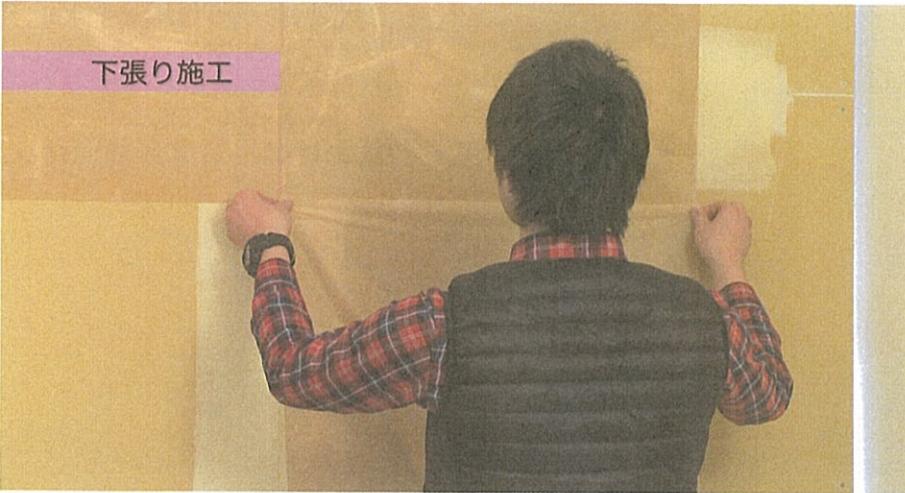
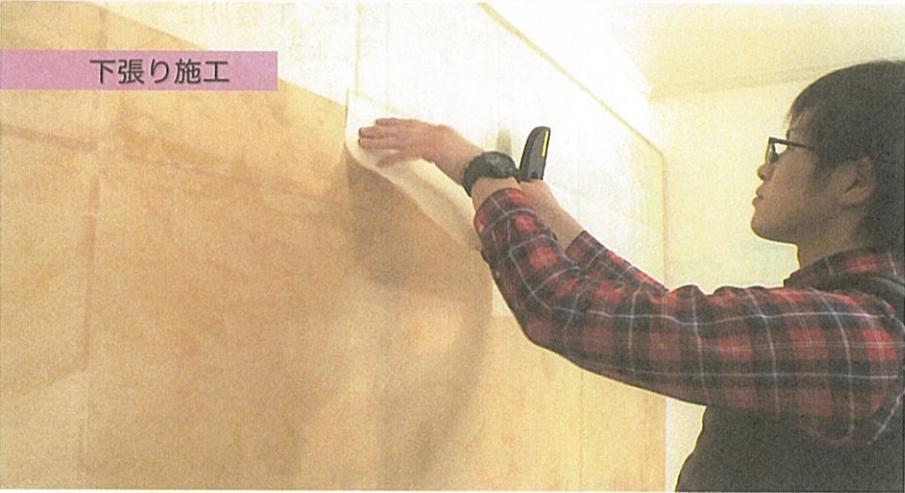
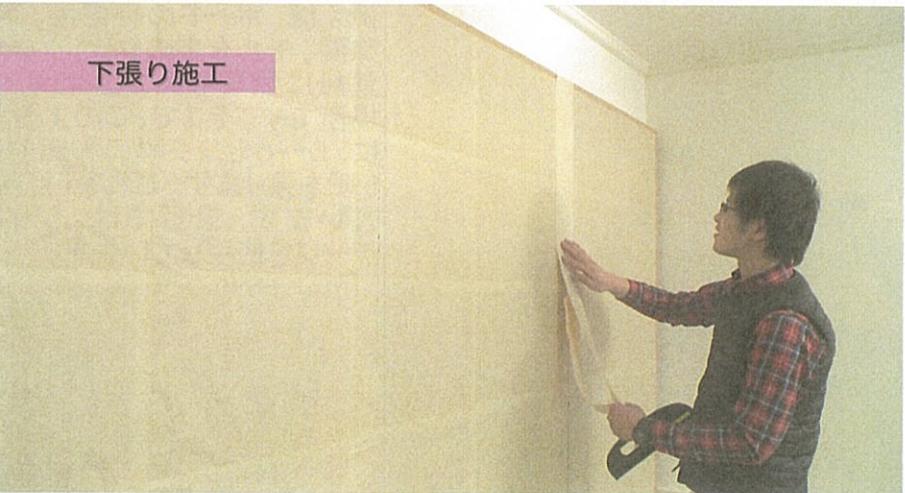


ここで古い壁紙をはがします。はがした材料は散らかさないように、現場をきれいに片付けながら仕事することに注意します。また、はがした後の下地に問題がないか良く気を付けてください。

	画 像	解 説
61		<p>剥がれなかった場合には、全面にシーラーや水などを塗布し、浮いた箇所を剥がし、パテで不陸調整するのが良いでしょう。なお、防火仕上げの場合は全面剥がします。</p>
62		<p>次に、下張りについて研究してみましょう。</p>
63		<p>例えば、ボードの継ぎ目、下地の隙間、モルタルのクラックなどは、壁紙に無理な力が加わりやすい場所です。そこで、このような部分に、5～6センチ幅の和紙やクラフト紙を張ります。これを「目張り」と言います。最近では、ジョイントテープを使用しています。</p>

画 像

解 説

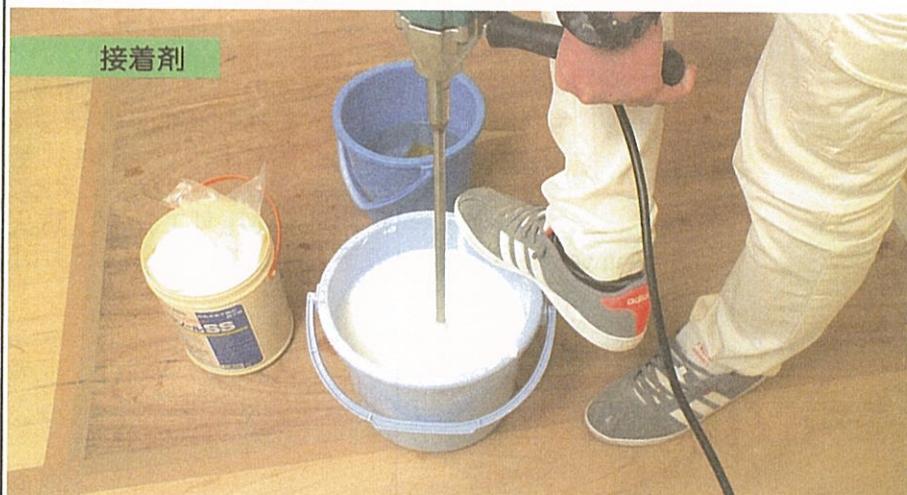
<p>64</p>	<p>下張り施工</p> 	<p>また、このように全面にクラフト紙や和紙などを張っていくのは、「べた張り」です。</p>
<p>65</p>	<p>下張り施工</p> 	<p>半紙大に裁断した和紙の四方に3ミリ程度の幅で糊付けして周囲3センチから5センチほど逃げて、下地全面に張るのは「袋張り」。これによって下地の凹凸をなくし、仕上げをソフトなものにすることができます。</p>
<p>66</p>	<p>下張り施工</p> 	<p>袋張りをした後、あるいは下地に直張りする時など、上張りを突付けにするために、そのジョイント部を補強するのが「ジョイントベタ」。</p>

	画 像	解 説															
67	<p>下張り施工</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>施工方法</th> <th>特長・用途</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>二偏袋</td> <td>袋貼りを複数回貼る</td> <td>下地の凹凸を隠しソフトな風合いに仕上がる</td> </tr> <tr> <td>清貼り</td> <td>袋貼りの上に全面にべた貼り</td> <td>袋貼りのたるみを押さえる</td> </tr> <tr> <td>田の字べた</td> <td>半裁の下張り紙に田の字型に糊付けして貼る</td> <td>べた貼りと袋貼りととの中間の役割をする</td> </tr> <tr> <td>みの貼り</td> <td>箕状に下張り紙をすらしながら貼る 1編～複数回貼る場合もある</td> <td>襖・屏風・搬子張り等の特殊な施工に用いる</td> </tr> </tbody> </table>		施工方法	特長・用途	二偏袋	袋貼りを複数回貼る	下地の凹凸を隠しソフトな風合いに仕上がる	清貼り	袋貼りの上に全面にべた貼り	袋貼りのたるみを押さえる	田の字べた	半裁の下張り紙に田の字型に糊付けして貼る	べた貼りと袋貼りととの中間の役割をする	みの貼り	箕状に下張り紙をすらしながら貼る 1編～複数回貼る場合もある	襖・屏風・搬子張り等の特殊な施工に用いる	<p>この他にも、「田の字」「みの張り」「二遍袋」「清張り」など、いろいろな下張りの方法があります。これらはいずれも上張りの精度を特に高めるのに用いる下地調整の手法です。壁紙の種類によって、べた張りとは袋張り工法が、防火仕様の下地として認められるようになりました。</p>
	施工方法	特長・用途															
二偏袋	袋貼りを複数回貼る	下地の凹凸を隠しソフトな風合いに仕上がる															
清貼り	袋貼りの上に全面にべた貼り	袋貼りのたるみを押さえる															
田の字べた	半裁の下張り紙に田の字型に糊付けして貼る	べた貼りと袋貼りととの中間の役割をする															
みの貼り	箕状に下張り紙をすらしながら貼る 1編～複数回貼る場合もある	襖・屏風・搬子張り等の特殊な施工に用いる															
68	<p>～接着剤～</p> 	<p>では、次に接着剤について研究してみましょう。</p>															
69	<p>接着剤</p> <p>壁紙 施工用 澱粉系 接着剤</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>1 種</td> <td>澱粉を主成分としたもの 施工時希釈</td> </tr> <tr> <td>2 種</td> <td>1 種に合成樹脂エマルジョン配合 施工時希釈</td> </tr> <tr> <td>2 種 2 号</td> <td>1 種に合成樹脂エマルジョン配合 希釈しないで使用</td> </tr> </tbody> </table>	1 種	澱粉を主成分としたもの 施工時希釈	2 種	1 種に合成樹脂エマルジョン配合 施工時希釈	2 種 2 号	1 種に合成樹脂エマルジョン配合 希釈しないで使用	<p>JIS A 6922「壁紙施工用でん粉系接着剤」では、1種がでん粉のみ、2種が合成樹脂エマルジョンを配合したものです。</p> <p>他に、ホルムアルデヒド発散量に関して国土交通大臣が認定した接着剤もあります。いずれも、ホルムアルデヒド発散量は微量で、使用面積制限を受けないエフフォースター のものです。</p>									
1 種	澱粉を主成分としたもの 施工時希釈																
2 種	1 種に合成樹脂エマルジョン配合 施工時希釈																
2 種 2 号	1 種に合成樹脂エマルジョン配合 希釈しないで使用																

画 像

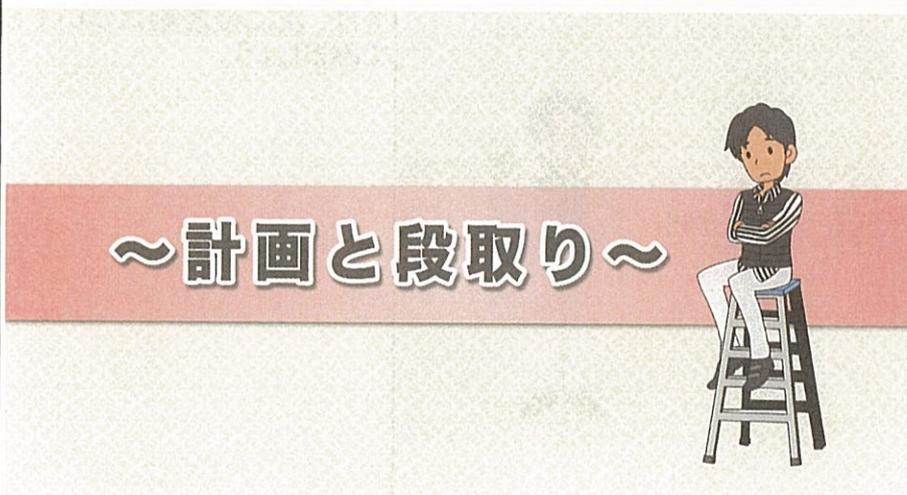
解 説

70



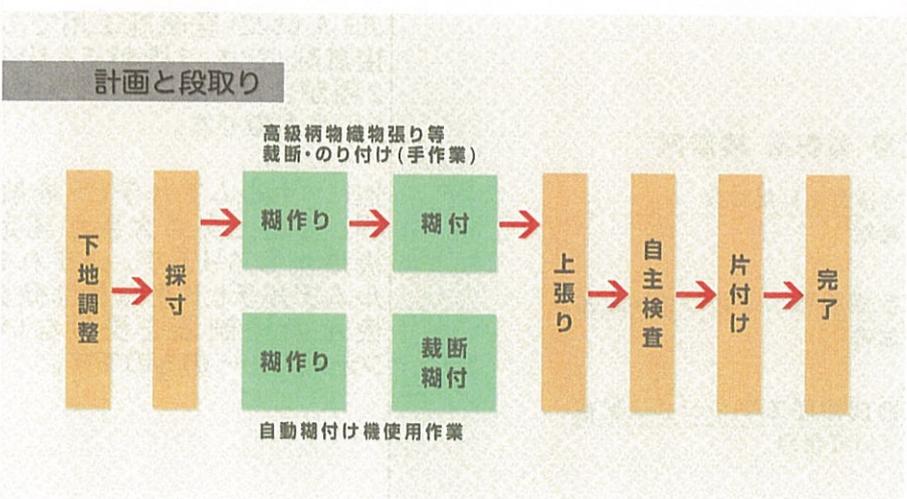
壁張りするときの接着剤は、「でん粉系」と「酢ビ」又は「アクリル系重合樹脂」とを混合したもので、混合の比率は、下地、壁紙、環境等を考えてきめます。

71

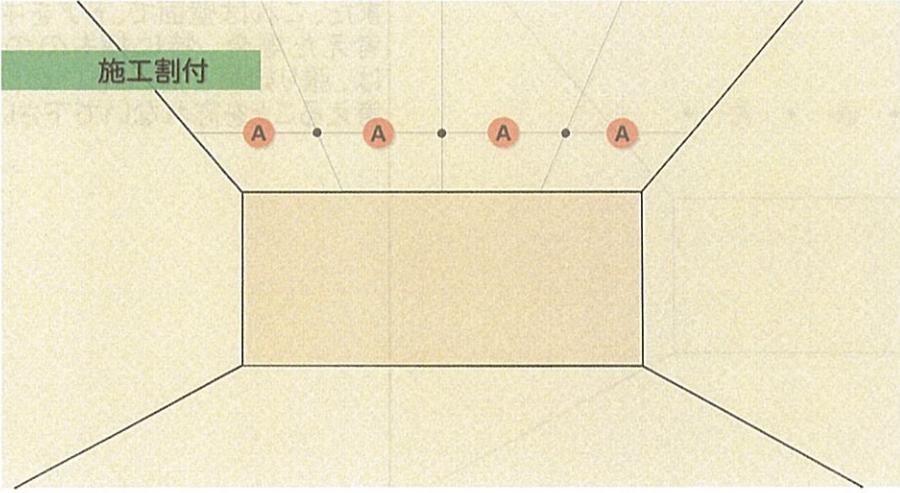
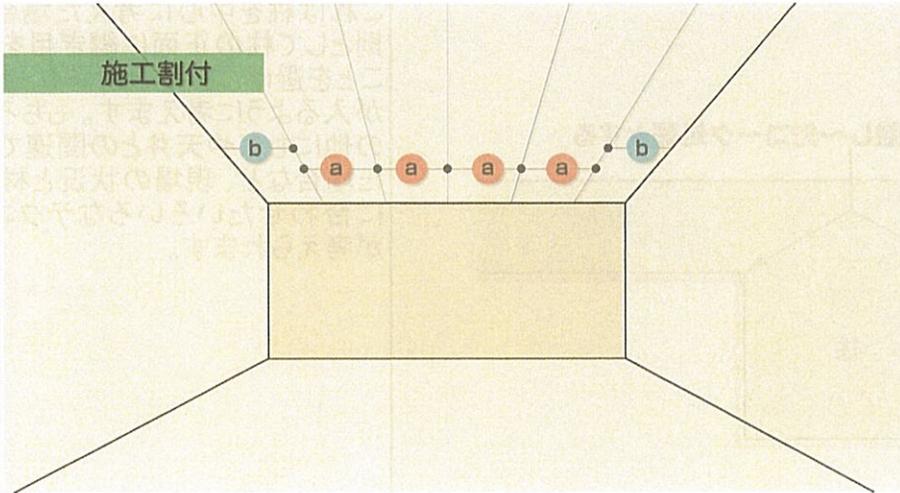


次に上張り作業の研究に進みますが、その前に大切な計画、段取りがあります。例えば、作業台や糊付け機の位置、作業の分担、作業の手順、施工割り付け、これらの判断も施工者が本当にプロであるかどうかの別れ道になります。

72



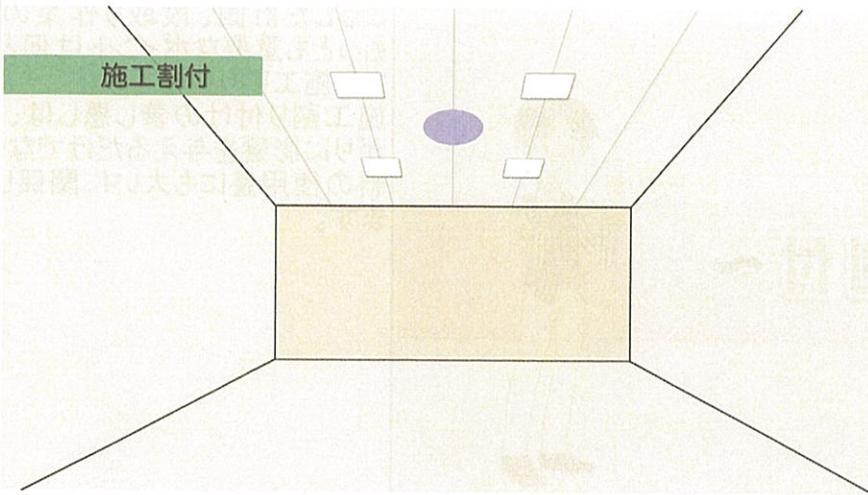
ごらん下さい。これは一つの現場を1人で作業する場合の作業手順の流れです。又糊付け機を使用した場合にはこのようになります。

	画 像	解 説
73		<p>こうした計画、段取り作業の中でもっとも重要なポイントは何と言っても施工割り付けです。 施工割り付けの善し悪しは、仕上がりに影響を与えるだけでなく、材料の使用量にも大いに関係してきます。</p>
74		<p>例えば、これは天井の割付けの例で、器具などとの関連を考えなくて良い、単純に全体を均等割りにした例です。</p>
75		<p>また、柄の関係で幅をつめることができないような場合、このように中心から張って両端で均一になるように調整します。</p>

画 像

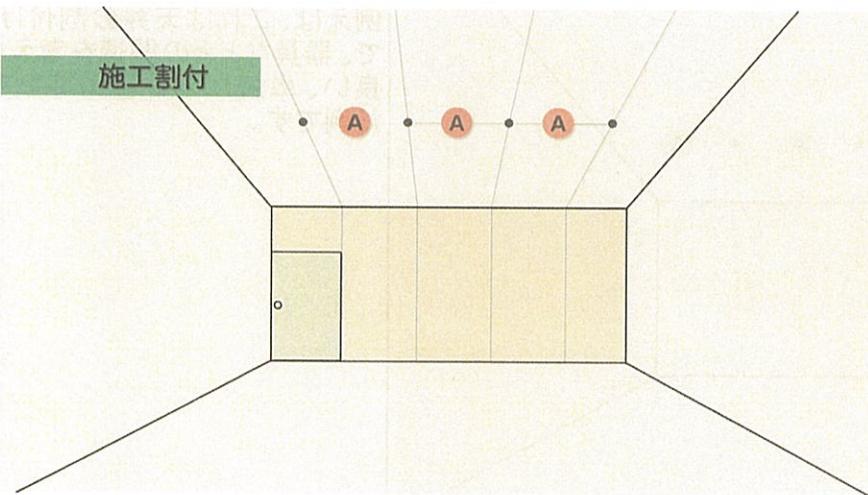
解 説

76



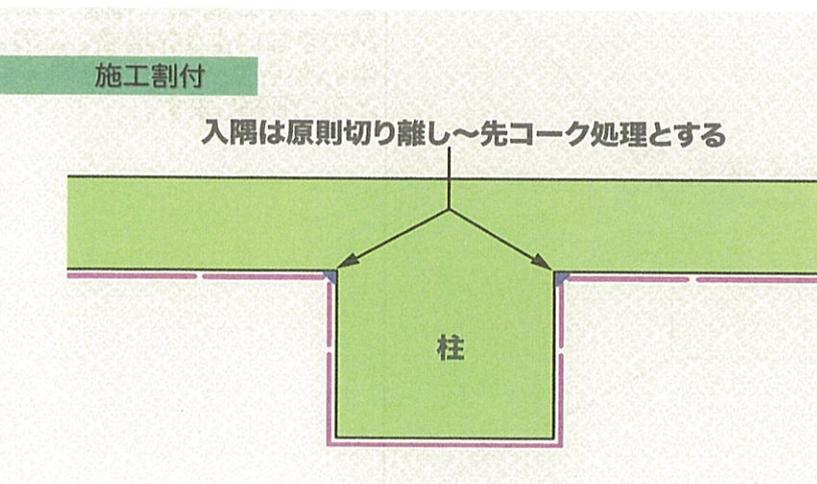
これは対称に照明器具などがある場合、壁紙も左右対称になるように割り付けることが原則です。

77

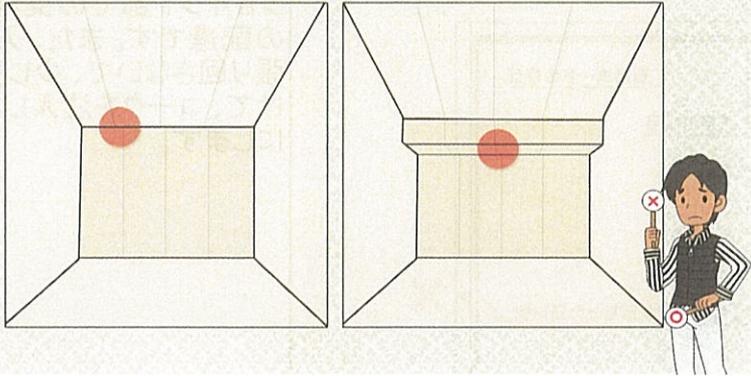
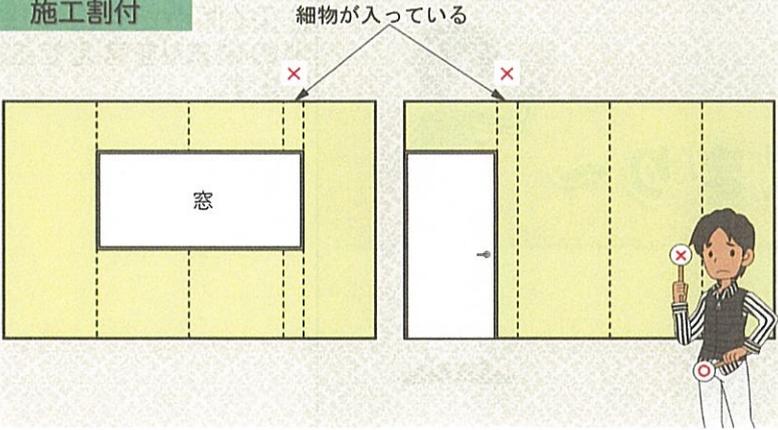
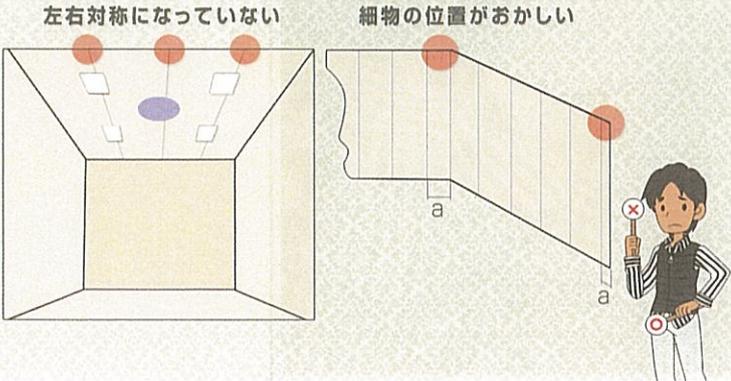


また、これは壁面で、ドアを中心に考えた場合。特に柄もの場合は、張り始めと張りじまいの問題も考えることを忘れないで下さい。

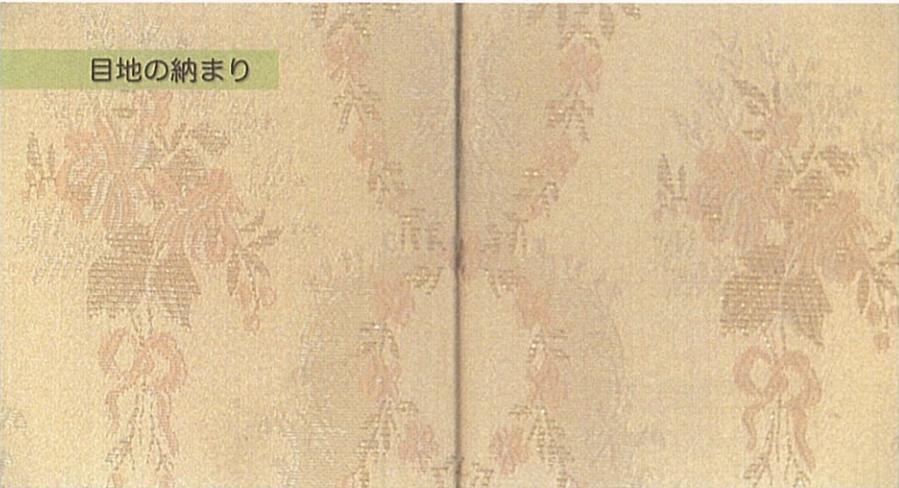
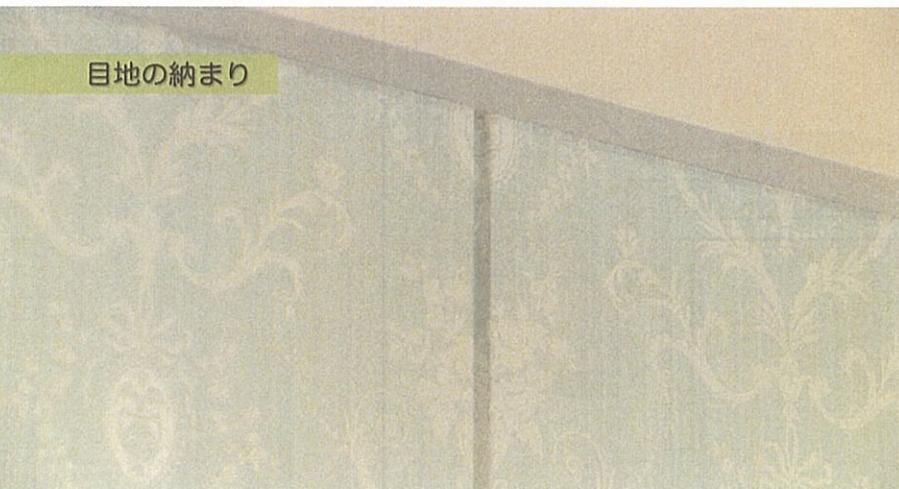
78



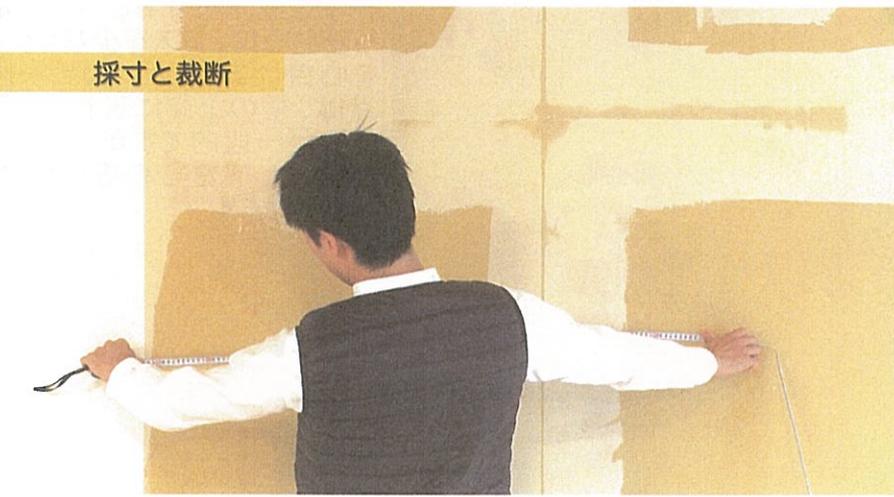
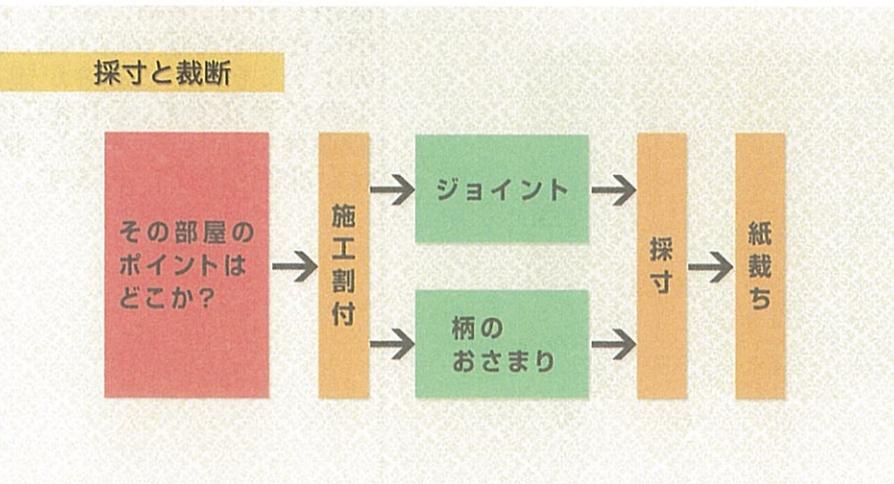
これは柱を中心に考えた場合。原則として柱の正面に継ぎ目を出すことを避け、左右の対称に継ぎ目が入るように考えます。もちろんこの他にも窓や天井との関連で考えた場合など、現場の状況と材料数に合わせたいろいろなテクニックが考えられます。

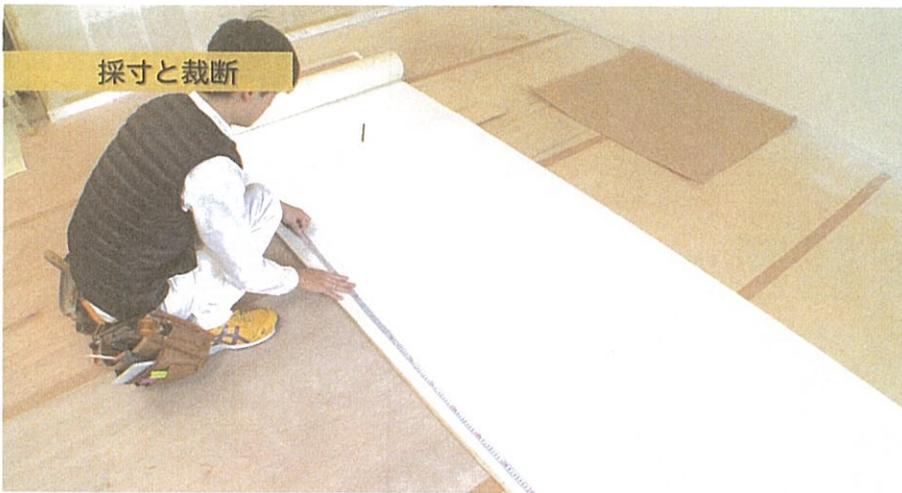
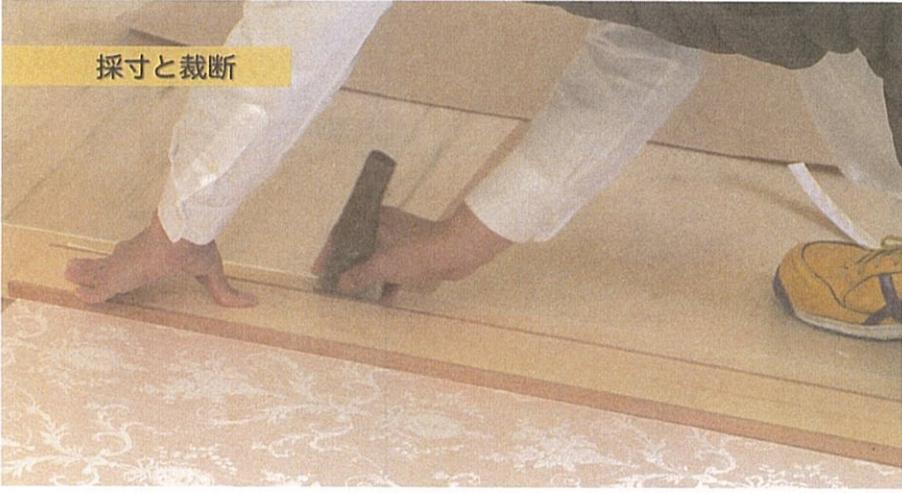
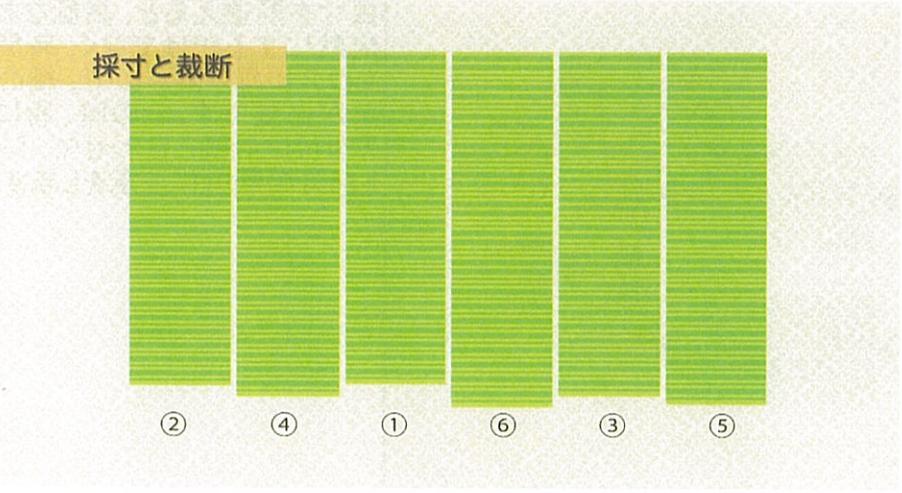
	画 像	解 説
79	<p>施工割付</p> <p>ジョイントが不ぞろい</p> 	<p>これは割り付けの悪い例です。</p>
80	<p>施工割付</p> <p>細物が入っている</p> 	<p>これも避けたい悪い割り付け施工例です。</p>
81	<p>施工割付</p> <p>左右対称になっていない</p> <p>細物の位置がおかしい</p> 	<p>このような割り付けも感心できません。こうした施工割り付け計画の善し悪しは、最後に建物の商品価値を決めますから、良い割り付けを心掛けたいと思います。</p>

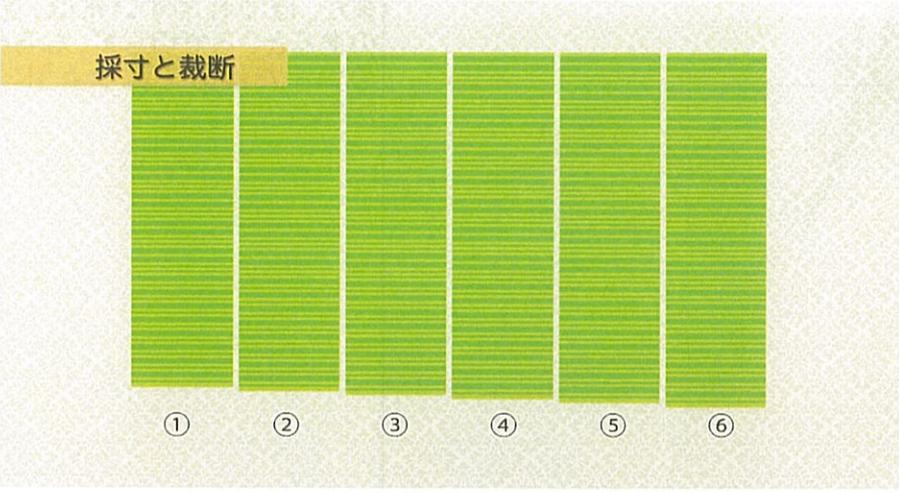
	画 像	解 説
82	<p>石膏ボードの継目と壁紙の継目が重なった悪い例</p>	<p>ボード類下地の割り付けは、ボードのジョイントと壁紙のジョイントが重ならないようにします。壁紙のジョイント部での支障を防ぐための配慮です。また、入隅は壁紙を張り回さないで、少し長めにきりつけて、コークを注入して納めるようにします。</p>
83	<p>~目地の収まり~</p>	<p>さて、ここで上張りに進む前に、ほつれや剥離のない美しい仕上がりを長く保つための手法として、目地の納まりを考えておきたいと思います。</p>
84	<p>目地の納まり</p>	<p>たとえば天井と壁の関係でみると、このような壁目地と</p>

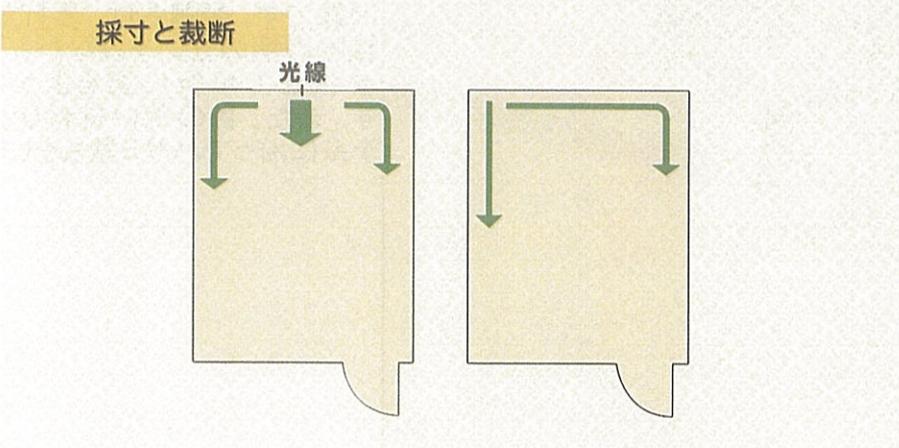
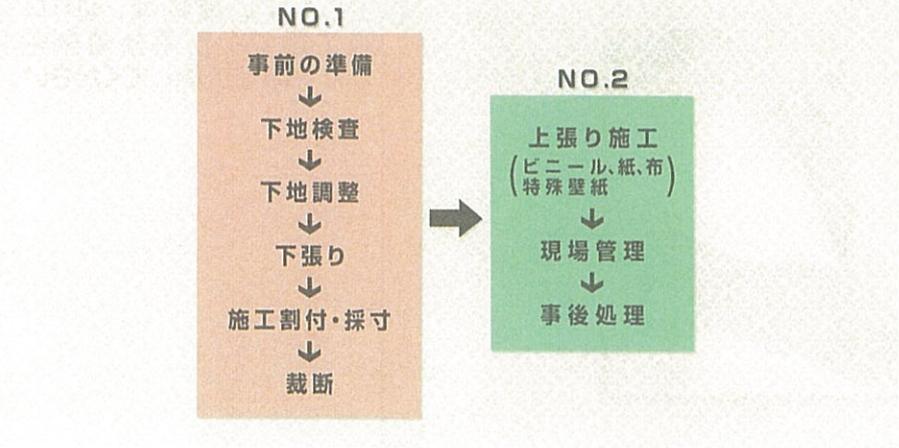
	画 像	解 説
85		<p>天井目地とががあります。天井目地では、天井に使用する材料で張るのが原則です。</p>
86		<p>織物のジョイント部のほつれを防ぐ最適な方法は、この差込み目地仕上げです。目地の寸法は布地の厚さにもよりますが、約2～3ミリ。俗に「ねむり目地」とも言われます。</p>
87		<p>目地底まで布地を巻き込むように仕上げる方法を「目透かし」と言っています。「目地」の深さは材料の厚さにもよりますが、6ミリ以上を必要とします。また、折り曲げにくい布地やビニルレザーなどの場合、目地棒押え仕上げをおこないます。</p>

	画 像	解 説
88	<p>目地の納まり</p> <p>引き違い戸</p> <p>タイコ張り開き戸</p> <p>枠付開き戸</p> <p>スリ棧</p>	<p>建具張りは、建具の種類によっていろいろな施工方法があります。これは代表的な引き違い戸、開き戸で、しかも面違いの納まりの例です。</p>
89	<p>目地の納まり</p> <p>両面で扉しゃくりのない場合</p> <p>片面-開き扉・引き戸</p> <p>両面張りで扉にしゃくり</p> <p>片面張りで開き扉・引き戸</p>	<p>この他にも このようなささまざまな建具張りの方法があります。</p>
90	<p>目地の納まり</p> <p>入隅は原則切り離し〜先コーク処理とする</p> <p>木下地</p> <p>石膏ボード</p>	<p>また、コーナーの見切り部分は、原則としてこのように処理します。</p>

	画 像	解 説
91		<p>さて、経験を積んだ技術者なら誰でも、建物が必ずしも図面通りの寸法でないことを知っていると思います。施工現場では、いかなる場合にも 正確に採寸をしなければなりません。</p>
92		<p>このように壁面の高さ、幅を実測し、材料の使用数量を計算して下さい。この場合、柄物は柄合わせに必要な余分をみておくことを忘れないでください。</p>
93		<p>採寸を間違えると、高価な材料を無駄にするだけでなく、時間的にもロスになりますので、細心の注意が必要です。この時、特に施工割り付け計画と合わせて、ジョイント部分の配分に注意をします。</p>

	画 像	解 説
94		<p>裁断の前に、張る方向と長さを決めてください。無地もの場合、壁は5センチ、天井は10センチ程度長めに採ります。材料によっては、糊付けした時、伸縮する場合があるので、注意してください。</p>
95		<p>柄物を裁断する場合は、柄の納まりを中心に、ロスを少なくすることを心掛けます。柄のリPEATの起点は、壁の上端に現れるようにするのが一般的ですが、現場によっては、上下左右均等に納める方法もあります。</p>
96		<p>柄物でも特に織物の場合、実際に柄に合わせて切っていくと、ごらんのようにそれぞれ長さが違ってするのが普通です。これをこのままの順序で張ってしまうと、柄合わせが非常に難しくなります。</p>

	画 像	解 説
97	 <p>採寸と裁断</p>	<p>これをこのように長さに合わせて順番に並べかえてから、オープンタイムで調節しながら張っていくと、比較的狂いの少ない仕上げにすることができます。</p>
98	 <p>採寸と裁断</p>	<p>特に織物壁紙の場合、裁ち方が問題です。幅裁ちは、裏打ち紙や織物の柄の狂いをみながら、柄に合わせて平行に切るようにします。また、目の荒い材料などはタテ糸に沿ってハサミ裁ちをします。</p>
99	 <p>採寸と裁断</p>	<p>なお、材料を裁断する時ほつれが生じやすい織物は、切り口を壁紙施工用でん粉系接着剤を薄めたものでのり止めしてください。</p>

	画 像	解 説
100		<p>また、ほつれやすい布は、遊び糸のあるところで切らず、なるべく目のつんだ部分で裁つようにしてください。</p>
101		<p>次に、張る方向と順序を考えてみましょう。張る方向は天井は長手方向に張るのが普通ですが、光の入る方向と同じ流れにするときれいな仕上げになります。また、光線の入り方が同程度の場合には、入り口の反対方向から張り出すのがよい方法です。</p>
102		<p>さて、これで私たちは、上張り作業を始める前に必要な準備を完了しました。後半は、引き続いて材料ごとの上張りを中心とする施工技術について研究してみたいと思います。</p>

壁張りの技法（後編）

	画 像	解 説
103	 <p>壁張りの技法・後編</p> <p>壁装研究会</p>	<p>この映像は、壁張り業務に従事する私たちが、プロとしての壁張り技法を研究するために制作したものです。前編に引き続いて、上張り施工技法からみていきたいと思います。</p>
104	 <p>~上張り施工~</p>	<p>まず、現在もっとも多く使われている、標準的な紙裏ビニル壁紙の施工を研究してみましょう。</p>
105	 <p>上張り施工</p>	<p>直張りする場合には、特に下地をもう一度点検してください。手で感じるほこりや凹凸は、すべてサンドペーパーで平滑にする。あるいはこのようにパテベラを使って表面を平らにします。</p>

画 像

解 説

106



無地物の材料は、スミ打ちをして寸法を出します。このように中央部分でも寸法を確認することを忘れないでください。また、裁ち方は、スミの内側で正確に切り落とします。

107

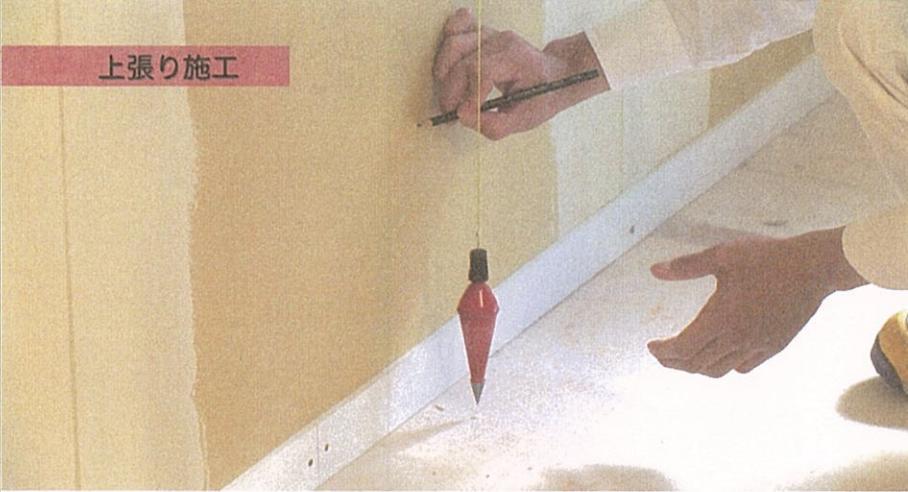
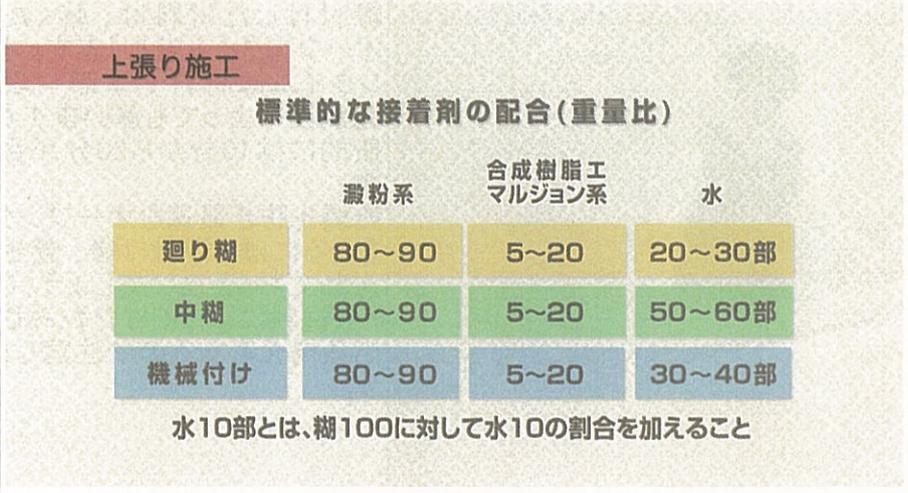


また、柄物は、一枚ずつ柄合わせをしながら裁っていきます。

108

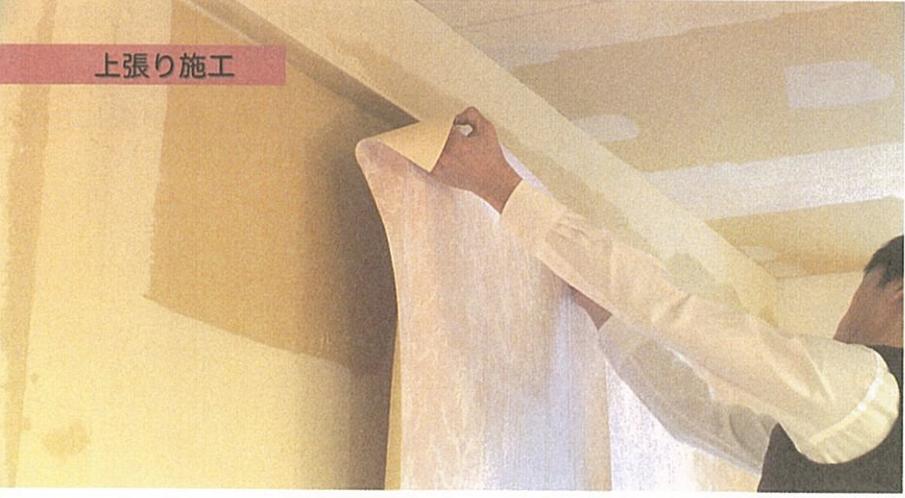


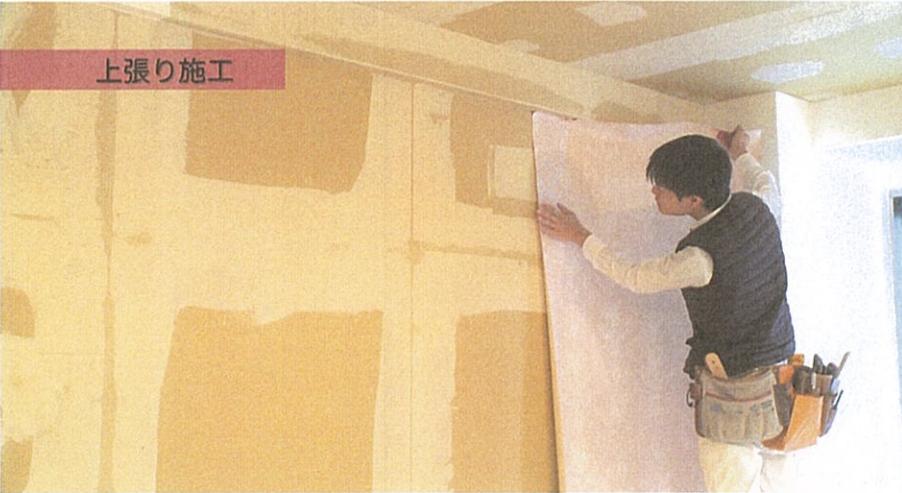
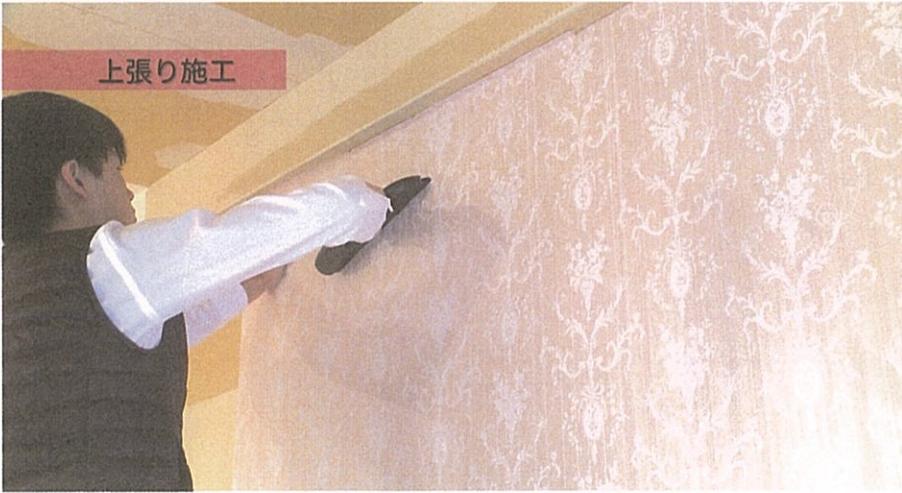
幅裁ちした材料は、上下を間違えないように、裏にうすく印をつけておくと良いでしょう。

	画 像	解 説																
109	 <p>上張り施工</p>	<p>ここで、このように幅に合わせて、張り出しの垂直線を出してください。</p>																
110	 <p>上張り施工</p> <p>標準的な接着剤の配合(重量比)</p> <table border="1" data-bbox="268 1041 949 1288"> <thead> <tr> <th></th> <th>澱粉系</th> <th>合成樹脂エマルジョン系</th> <th>水</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>廻り糊</td> <td>80~90</td> <td>5~20</td> <td>20~30部</td> </tr> <tr> <td>中糊</td> <td>80~90</td> <td>5~20</td> <td>50~60部</td> </tr> <tr> <td>機械付け</td> <td>80~90</td> <td>5~20</td> <td>30~40部</td> </tr> </tbody> </table> <p>水10部とは、糊100に対して水10の割合を加えること</p>		澱粉系	合成樹脂エマルジョン系	水	廻り糊	80~90	5~20	20~30部	中糊	80~90	5~20	50~60部	機械付け	80~90	5~20	30~40部	<p>さて、これは標準的な接着剤の配合表です。これを基準に、材料や下地に合わせた接着剤を使用してください。</p>
	澱粉系	合成樹脂エマルジョン系	水															
廻り糊	80~90	5~20	20~30部															
中糊	80~90	5~20	50~60部															
機械付け	80~90	5~20	30~40部															
111	 <p>上張り施工</p>	<p>廻り糊は、糊切れの良いハケで、6センチほどの幅に、ためないように、しかも切りロー杯までつけます。この時、糊が表に出ないように注意してください。</p>																

画 像

解 説

<p>112</p>	<p>上張り施工</p> 	<p>中糊は、たっぷり糊を含むハケを使い、平均にムラなく、手早く塗ります。</p>
<p>113</p>	<p>上張り施工</p> 	<p>糊付けした材料は、軽くたたみオープンタイムをとります。オープンタイムは材料や季節や現場の乾燥度によっても異なりますが、一般的には10分から20分が目安です。 乾燥を防ぎ最適なオープンタイムをとるには、糊付け後、養生袋に入れておくと良いでしょう。このとき、材料によってはたたみじわが出る場合もあるので注意しましょう。</p>
<p>114</p>	<p>上張り施工</p> 	<p>材料はこのように持ち、まず頭決めをします。この時、壁紙を横に引張って伸ばしてしまわないように気をつけてください。</p>

	画 像	解 説
115		<p>まず、頭の方を30センチぐらい軽く押さえて、下が垂直線に合っているか良く確かめてください。</p>
116		<p>平均になでて、しわを伸ばしますが、なで方はなるべくタテ方向にします。あまり横に力を入れ過ぎると、ジョイントが合わなくなったり、すき間が出来るもとになります。</p>
117		<p>切り付ける部分は、このようにヘラで良く折り目をつけます。</p>

画 像

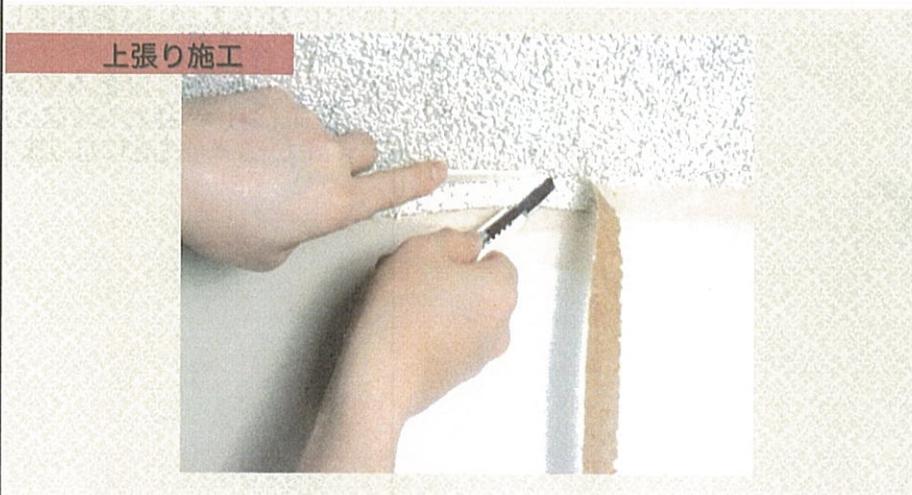
解 説

118



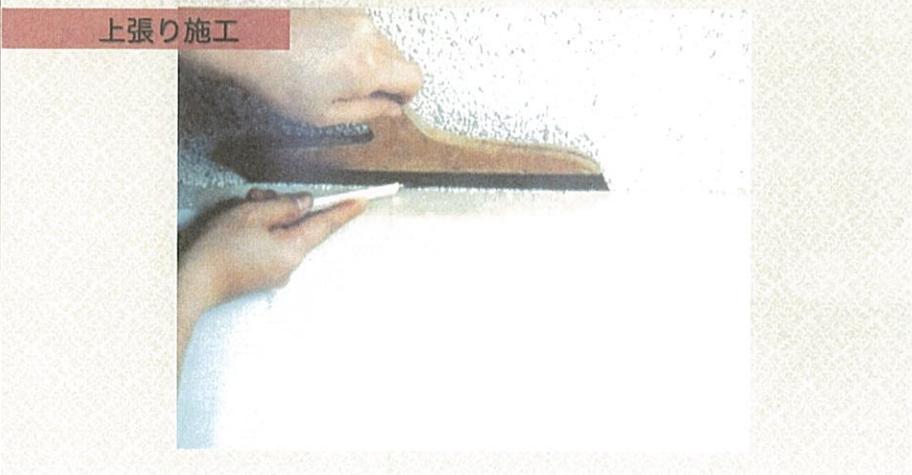
切り付けは、やや長めに切って、これを戻して納めるように行います。

119

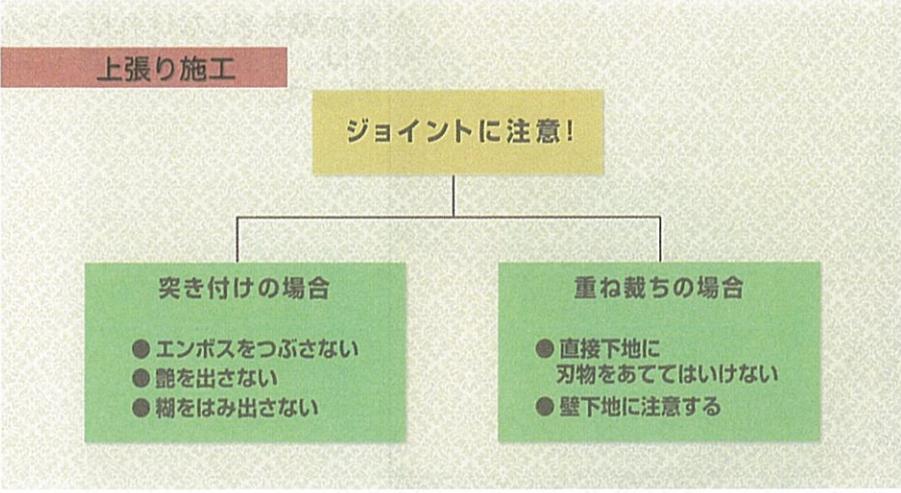
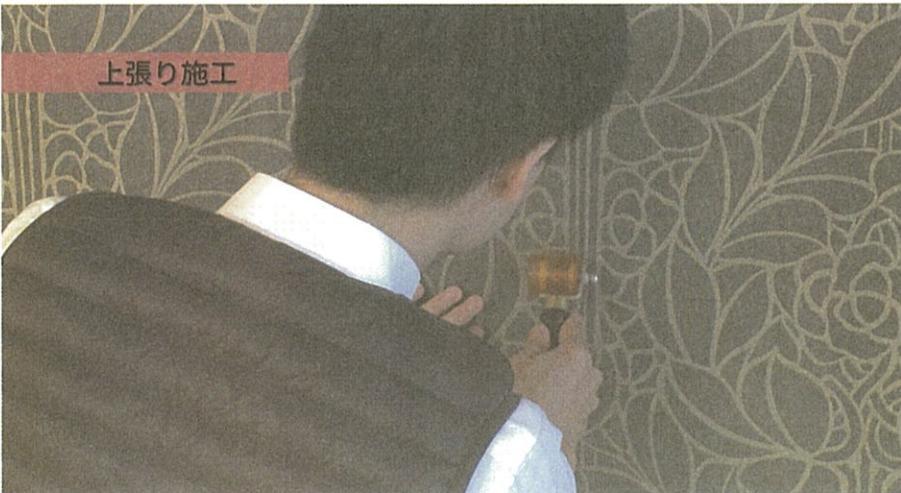


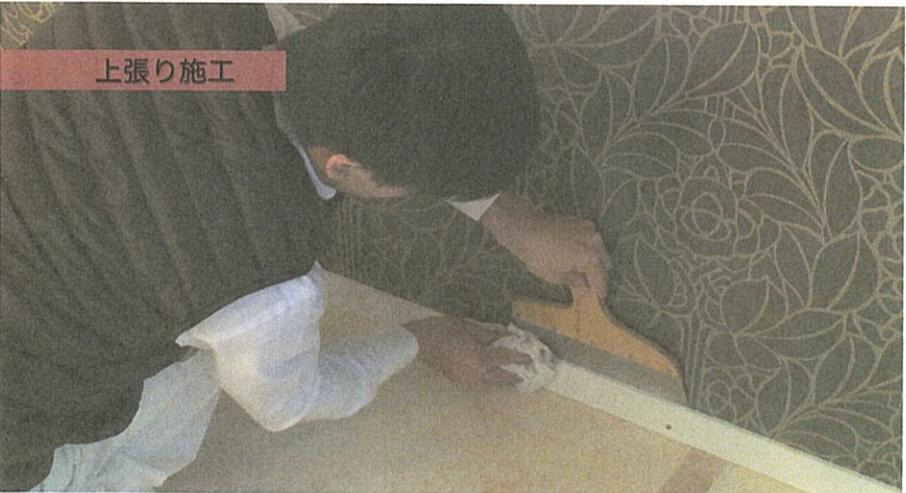
同じ切り付けでも、このように厚手のために一度で正確に切ることが出来ないような材料の場合、はじめこのように切り付け、

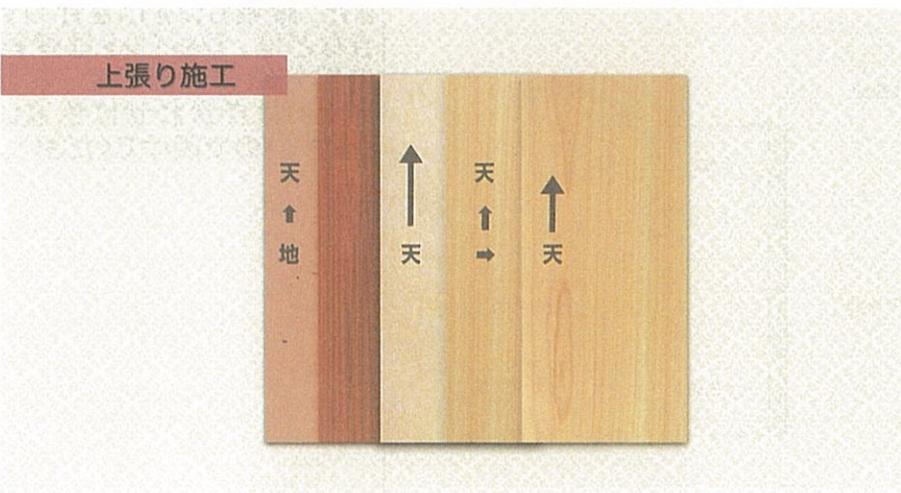
120

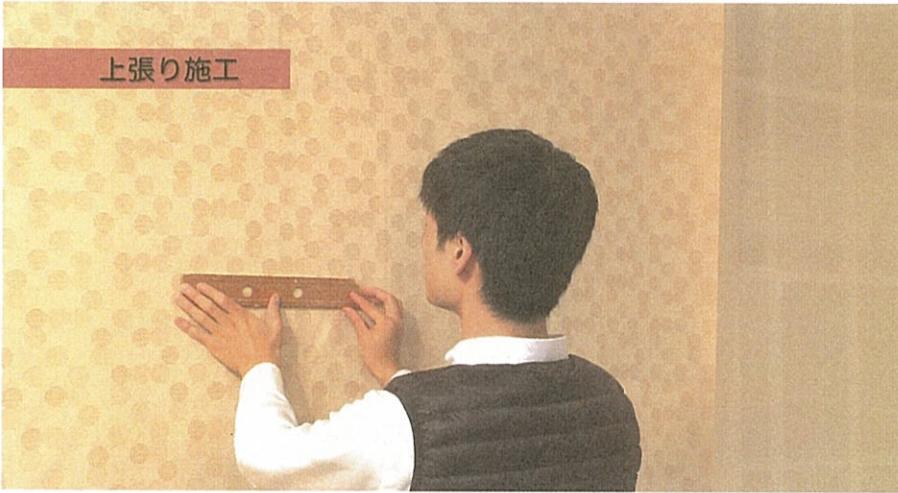
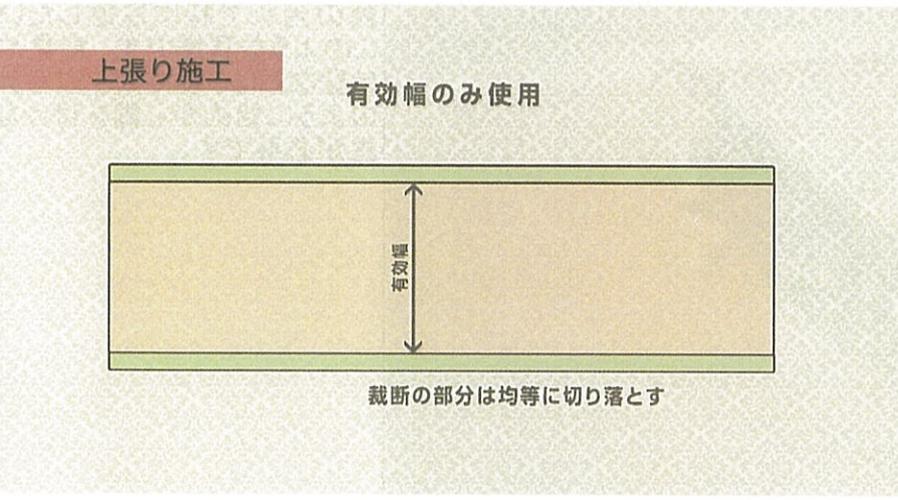
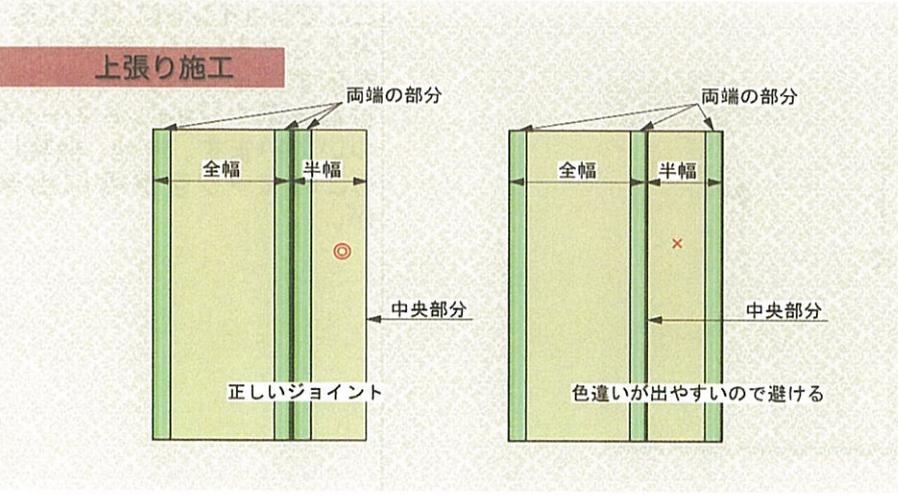


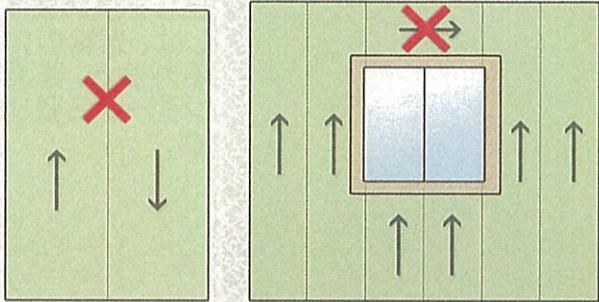
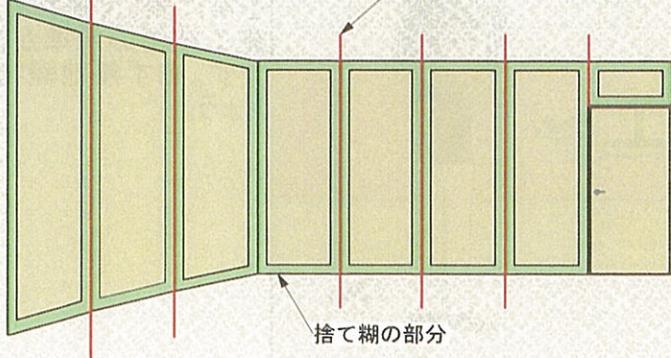
もう一度このように切って納めるようにすると、きれいに仕上がります。

	画 像	解 説
121		<p>切った後は、ヘラできちんと押さえ付けます。</p>
122		<p>二巾目の壁紙を張る際には、特にジョイントに注意が必要になります。ジョイントには、突き付けと重ね裁ちの二つの方法があります。</p>
123		<p>突き付けの場合、ジョイントは少し重ねておき、なで終わってからその重ねた部分を戻すようにしてローラーをかけると、後で隙間ができるようなことを防げます。ローラーのかけ方が悪いと艶が出たり、エンボスが消えたり、糊がはみ出したりしますから注意してください。</p>

	画 像	解 説
124	<p>上張り施工</p> <p>直接刃物をあててはいけない壁下地</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 石こうボード ● せんい壁 ● 砂壁 ● 鉄扉及び鉄枠 ● プラスター塗壁 	<p>重ね裁ちは特に注意してください。下地がこのような石膏ボードなどの場合は、小さなキズでも壁面が割れ、壁全体に影響してきますから、原則として刃物を直接下地に当てないようにします。</p>
125	<p>上張り施工</p> 	<p>重ね裁ちをしなければならない場合は、下敷きを当て裁つようにしましょう。</p>
126	<p>上張り施工</p> 	<p>上張りや廻りについた糊は、早めに、きれいな水で絞った布で良く拭き取って下さい。はみ出した糊をそのままにしておくと、後でシミやヨゴレになってしまいます。</p>

	画 像	解 説
127		<p>また、糊を付けて裁ち落した材料は、必ず内側を合わせて片付けるようにします。</p>
128		<p>糊の汚れで特に注意したいのはこのような現場です。家具や練付け壁などは、後で拭き取るより、このように始めから糊を付けない養生が必要です。</p>
129		<p>ここでジョイントについてもう少し考えてみましょう。壁紙には、方向を示す天地マークや、柄合わせの位置を示すジョイントマークなどがついています。無地、柄物いずれもこのマークを参考に出来ますが、</p>

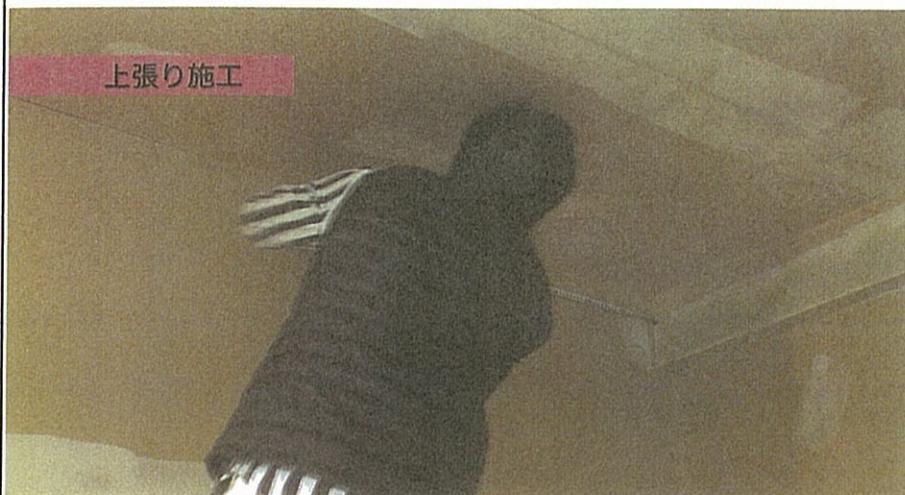
	画 像	解 説
130	 <p>上張り施工</p>	<p>最終的な柄合わせは、表面からみて合っていることを確認して張ることが大切です。</p>
131	 <p>上張り施工</p> <p>有効幅のみ使用</p> <p>壁紙の幅</p> <p>裁断の部分は均等に切り落とす</p>	<p>次に、壁紙の色違いを防ぐ方法を考えてみましょう。壁紙の幅裁ちは、色・柄などにムラがない有効幅だけを使うように裁ち、ムラなどの多いヘリの部分は裁ち捨てます。</p>
132	 <p>上張り施工</p> <p>両端の部分</p> <p>全幅</p> <p>半幅</p> <p>中央部分</p> <p>正しいジョイント</p> <p>色違いが出やすいので避ける</p>	<p>また、細幅ものをはぎ合わせる場合などは、ジョイントは壁紙の端の部分同士で合わせ、端と中央部でののはぎ合わせは色違いになりやすいので避けてください。</p>

	画 像	解 説
133	<p data-bbox="167 347 448 387">上張り施工</p> <div data-bbox="331 405 930 752"> <p data-bbox="363 405 488 434">天地逆さま</p> <p data-bbox="603 405 746 434">部分的逆張り</p>  </div>	<p data-bbox="1075 309 1532 477">一部の材料を除き、壁紙の天地を逆さまに張り合わせたり、一部を横張りにしてはぎ合わせたりすると、色違いが出て納まらない場合があります。</p>
134	<p data-bbox="167 943 448 983">上張り施工</p> 	<p data-bbox="1075 884 1528 987">コーナー部分には、あらかじめコーキング剤を充填しておくことが大切です。</p>
135	<p data-bbox="167 1525 448 1565">上張り施工</p> <div data-bbox="272 1541 943 1928"> <p data-bbox="655 1547 906 1576">壁紙のジョイントの位置</p> <p data-bbox="587 1890 719 1919">捨て糊の部分</p>  </div>	<p data-bbox="1075 1460 1528 1597">また、クレームの無い丁寧な仕上げを目指して、壁紙のジョイント部分や、出ずみ、入りずみなどに捨て糊することも良い方法です。</p>

画 像

解 説

136



次に、天井の施工を考えてみましょう。まず、照明器具などとの関連を考えながら、施工割り付けに従って天井面にスミを打ち、張り出しを決めます。この時の張り出しは、光線の強い方から張り始める方法と、器具などとの関連でセンターから張り出す方法があります。

137



張り出しはあまり大きく広げないで位置を合わせ、平均になでるようにします。なお、押え木は最後まで持ち続けるようにします。



部屋の天井、壁などに壁紙を張ることにより、その空間は、たちまち壁紙が表現するデザインの世界に変貌します。

かべばり ぎほう きょうかしよ がぞう
壁張りの技法 教科書 (画像 No.1~No.137)

かべばり ぎほう ぜんぺん

1. 壁張りの技法・前編

えいぞう かべばりぎょうむ じゅうじ わたくしたち かべばり ぎほう
No.1: この映像は、壁張り業務に従事する私達が、プロとしての壁張りの技法を
けんきゅう せいさく
研究するために製作したものです。

せこうしゃ ひと けいけんゆたか かべばり ただしいきほん
これから施工者となる人も、すでに経験豊かなベテランも、壁張りの正しい基本
み かくじ ぎじゅつ たかめ ところ くだ
を身につけ、各自の技術を高めるよう心がけて下さい。

かべがみ かみ おりもの えんかび にるじゅし そざい
No.2: 壁紙は、紙、織物、塩化ビニル樹脂、プラスチックなどさまざまな素材からつ
ひょうげん いろ がら じつ たよう
くられています。そして、その表現するデザインは、色・柄・質感など実に多様
たさい このみ じゅう えんしゅつ すばらしいざいりょう
多彩なものがあり、好みのインテリアを自由に演出できる素晴らしい材料です。

へや てんじょう かべ かべがみ はる こうかん かべがみ
No.3: 部屋の天井、壁などに壁紙を張ることにより、その空間は、たちまち壁紙が
ひょうげん せかい へんぼう
表現するデザインの世界に変貌します。

かべ てんじょう しつない ひろいめんせき しめ ひと め つね しぜん むく
No.4: 壁や天井は、室内の広い面積を占め、人の目が、常に、自然に向くところで
ぶぶん ひょうじょう むいしき ひと ところ おおきなえいきょう あた
す。この部分の表情は、無意識のうちに人の心に、大きな影響を与えます。
いみ また してん かべがみ たいへんじゅうようし
その意味でも、又インテリアの視点からも、壁紙は大変重要視されている
ないそうし あげざい
内装仕上げ材です。

うつく きょじゅうかんきょう たいせつ やくわり かべがみ
No.5: 美しいインテリアをつくり、居住環境にも大切な役割をになう壁紙です

ほんとう いかしてつか かべがみ よ じゅうにぶん はっき
が、これを本当に活かして使うのには、その壁紙の良さを十二分に発揮させる、
たしか せこうぎじゆつ かくじつ せこう か
確かな施工技術と、確実な施工が欠かせません。

しつない しあげ ぼうかじょう きせい はっさん きせい
No. 6: また、室内の仕上げには、防火上の規制や、ホルムアルデヒド発散の規制など、
すむひと あんぜん けんこう まもる ほうれい さだめ まもり てきせつ
住む人の安全と健康を守るための法令の定めがあります。これを守り、適切に
しあげる せこうしゃ たいせつ やくめ
仕上げるのも施工者の大切な役目です。

ぼうかしあげ かべがみ したじきざい はりあわせ たじょうたい ふねんざいりょう じゆんふねん
No. 7: 防火仕上の壁紙は、下地基材と張り合わせた状態で、不燃材料、準不燃
ざいりょう なんねんざいりょう こくどうつうだいじん にんてい
材料、難燃材料などに国土交通大臣より認定されものがあり、いかなる
せいげん きびしいばしょ たいおう
制限の厳しい場所にも対応できます。

はっさん きせい いちぶ かべがみ のぞけ かべがみ せこうよう せつちやくざい
No. 8: ホルムアルデヒド発散の規制は、一部の壁紙を除けば、壁紙も施工用の接着剤
げんざいしはん ざいりょう きかくひん だいじん
も現在市販されている材料、エフフォースターのJIS規格品か大臣
にんていひん したじざい きせい うけた かぎり あんしん てきほう
認定品なので、下地材が規制を受けたものではない限りは、安心して適法な
しあげ
仕上げが行えます。

うつく あんぜん かいてき かべがみ てきかく しあ
No. 9: 美しく、安全で、快適なインテリアをもたらす壁紙。それを的確に、仕上げ
ひつよう たいせつ
るためには、どのようなことが必要で、また大切なのでしょうか。
しごと ながれ けんきゆう
これから、その仕事の流れとポイントを研究してみましよう。

わたしたち けんちくか せしゆ かがた かべば こうじらい
No. 10: まず私達は、建築家やデザイナーあるいは施主の方々から、壁張り工事依頼さ

ざいりょう せんてい みつも そうだん うかが かべば こうじ
れ、材料の選定や見積りなどの相談に伺います。これが壁張り工事の
はじまり
始まりです。

えいぎょうたんとうしゃ きやくさま ようぼう せいかく りかい しょうもくてき げんば
No. 11: 営業担当者は、お客様のご要望を正確に理解し、使用目的、現場の
じょうきょう したじ きぼう かべがみ こうき うちあわ ただ せいさん
状況と下地、ご希望の壁紙、工期などについてお打合せし、正しい精算をし
みつも ていしゆつ はっちゅう いただ せこうけいかく
て、お見積りを提出し、ご発注を頂いて、施工計画をたてます。

たんとうしゃ じっさい げんば み りっち ばしょ た こうじ こうてい かくにん
No. 12: 担当者は、実際に現場を見て、立地や場所、他の工事との工程などを確認し
ます。

てんじょう かべしたじ とびらわく まわりぶち げんば くわ
No. 13: 天井、壁下地はもちろん、扉枠、廻り縁など現場を詳しくチェックします。

ざいりょう げんば あ ばあい きやくさま そうだん ざいりょう
もし材料が現場に合わないような場合は、お客様と相談しながら材料や
したじ じょうけん か いただ ねが
下地の条件を変えて頂くようお願いしなければなりません。

とく はりかえ ばあい かべがみ あと したじ じょうたい
No. 14: 特に張り替えの場合は、壁紙をはがした後の下地がどういう状態であることを
みぬ たいせつ したじ かべがみ は は
見抜くことが大切です。下地によっては、壁紙をすぐに張れなかったり、たとえ張
したじ けっかん おお めだ かくにん
れても下地の欠陥などが大きく目立つようなことがありますから、よく確認して
ください。

たんとうしゃ せこうけいかく さぎょうさしずしょ さくせい せこうぎのうしゃ
No. 15: 担当者は、施工計画にもとづいて「作業指図書」を作成し、施工技能者に
ひきつい こうじ ただ せこう
引き継いで工事が正しく施工されるようにします。

さぎょうさしずしょ こきやく たてもの じょうほう こうき したじ せこうざいりょう
作業指図書は、顧客や建物の情報、工期などとともに、下地、施工材料、
せこうほうほう せこう さい ちゅういてん ぎじゆつてき しじ じょうほう つた
施工方法と施工に際しての注意点など技術的な指示や情報を伝えるもの

です。

しじしよ げんば ちゆうしゃじょう げんば きそく ひつよう
また、指示書には、現場へのアクセスや 駐 車 場、現場の規則、必要によっては
でんき みず じょうきょう つた
カギや電気、水などの 状 況 も伝えるようにします。

じぜん じゅんび

2. 事前の準備

げんば ぎのうしゃ じぜん じゅんび たいせつ だんかい
No. 16 : 現場の技能者にとっては、事前の準備が大切です。この段階をおろそかにする
せこうしゃ けつ よいしごと
と、どんな施工者も、決して良い仕事をすることはできません。

さぎょう しじないよう かくにん
No. 17 : まずは、作業の指示内容を確認します。

つぎ きかい どうぐ ざいりょう ふくしがい てんけん げんば はいって ざいりょう
No. 18 : 次に、機械や道具、材料、副資材を点検します。現場に入ってから材料が
ちが ふくしがい た どうぐ わす
違うとけ、副資材が足りない、道具を忘れたなどということがないようにしましよ
う。

かべば せこう のりづけきかい つく いま
壁張り施工をゴウリかするため、このような糊付機械が作られ、今では
じゅうらい くら たいへんせいど たかく しょうりよくか か きかい つか
従 来 に 比 べ 大 変 精 度 も 高 く、省 力 化 に 欠 か せ ま せ ぬ。こ う し た 機 械 も 使 い こ
せこうしゃ はんだんりよく つけくわ こうりつ
なし、プロの施工者としての判断力を付け加えることによって、より効率の
よい かべはり ぎほう かんせい
良い、すぐれた壁張りの技法を完成させていくことができるのです。

げんばとうちやく まえさぎょう

3. 現場到着・前作業

げんば とうちやく げんば はい とき せしゆ げんばかんたく
No. 19 : いよいよ現場に到着しました。現場に入った時には、まず施主や現場監督に

きもよ
気持ち良くあいさつします。

No. 20 : また、仲間や他の業者へのあいさつも大切です。現場で本当に良い仕事をするためには、日頃からこのように仲間同士がスムーズに仕事ができるような環境を、自身自身でつくっていかねばなりません。

No. 21 : 同じ現場でも、張替のような場合には、住んでいる人、あるいは施主の方に対して、丁寧なあいさつが必要です。「オレは頼まれたから、ただ張りに来たただけだ」ということではなく、会社を代表する1人として紳士的に行動してください。

No. 22 : さて、ここで現場についての総合的な判断が必要になります。他の仕事の進み具合はどうでしょうか。下地に思わぬ欠陥はないでしょうか。もし直すべき点があれば、現場の監理者を通じて丁寧に頼まねばなりません。

No. 23 : そして、ここでもう一度材料を点検してください。品番、数量に間違いはありませんか。

No. 24 : シックハウス対策について、顧客より要望がある場合には、ご相談の上で、工事前の室内空気を測定し、施工後、同じように測定してその成績書を提出し、ご確認いただく必要もあります。

No. 25 : 正しいシックハウス対策が行われたことを知っていただくために、材料に表示されているエフ フォースターマークを写真に撮るなどして保管してください。

No. 26 : キズ、ムラ、色違いなども調べます。材料はこのようなことを注意しながらチェックしていきます。

No. 27 : 色ムラや色違いは、このようにして調べます。

直射日光の下では、色ムラはわからなくなりますから、北側の壁か床に広げて確認します。

No. 28 : もし、材料に問題があったり、不足している場合は、直ちに会社又は営業担当者に連絡してください。この時、不足している材料の品番、ロット番号、数量を正確に伝えます。張り始めてから、材料不足に気がつくようでは困ります。糊付け機を使用する場合も同様で、事前に数量は必ずチェックしておきましょう。

4. 下地検査・下地調整

No. 29 : 作業はいよいよ下地の検査と下地調整に進みます。「施工者は、下地や材料を確認し、壁紙に適した下地調整と下地調整剤が選べ、最適な接着剤の選択ができれば一人前」と言われるほど、この工程は大切です。

No. 30 : 下地調整は、下地を壁紙が張れる状態に調節するとともに、施工後、美しく仕上がり、目透き・剥がれ・変色等の支障が起こらず、また張り替え時には、剥がし易い状態を確保するなどの大切な役割があります。

No. 31 : 下地調整の主な手順は、下地の汚れや異物を取り除く。下地を補強し、給水性を調整する。パテ処理、サンダー処理により、下地を平滑にするなどです。

No. 32 : 下地面にサインペンやマジックインクなどの記入物がある場合は、そのまま壁紙を張るとこれらの色素が壁紙の表面に移行することがあるので、必ず記入物や色素を取り除きます。又ホコリや油類の汚れなども接着のさまたげになるので取り除いて下さい。

No. 33 : 壁紙の下地基材には、湿式工法のコンクリート、モルタルや乾式工法の石こうボード、
珪酸カルシウム板、合板などがあります。
そのほか、可動間仕切りなど様々な下地があります。

No. 34 : 改修工事では、既存壁紙の張替えや塗装面、化粧板などが下地となる場合があります。

No. 35 : では、はじめに湿式工法のコンクリート・モルタルの下地について研究してみましよう。

No. 36 : 下地が乾燥していない状態では、壁紙は張れません。無理に張っても剥がれたり、カビが発生する恐れがあります。

水分計などを用いて下地が十分感想していることを確認してください。

目安として水分計で8%を切っていれば施工が可能です。

No. 37 : コンクリート、モルタルなどは表面に粉が吹いたような状態になっていることがあります。手で表面をなでてみて白い粉が付着するようなら、壁紙張りには不適當です。

No. 38 : 例え表面が粉っぽくない場合でも、湿式工法下地では吸水性の調整やアルカリ分を抑えるために、基本作業として、シーラー塗布を行います。

No. 39 : ここで、シーラーについて研究してみましよう。シーラーは、合成樹脂系の下地調整剤で、の下地材表面に塗布すると、下地剤内部に浸透します。その過程で合成樹脂は溶剤と分離し、造膜します。

No. 40 : まず、^{きゆうすいせい おお}吸水性の大きい^{したじ}下地では、シーラー^{とふ}塗布により、^{きゆうげき}急激な^{したじ}下地の^{きゆうすい おさ}吸水が抑えられ、^{せこうじ}施工時に、^{あお}煽りや^{がらあ}柄合わせが^{ようい}容易になります。

No. 41 : また、^{こなふ}粉吹き^{したじ}モルタル^{したじ}下地には、シーラー^{とふ}塗布により、^{したじないぶ}下地内部に^{しんとう}浸透し、^{したじ}下地を^{かため}固めます。

No. 42 : ^{かべがみ}壁紙の^{はか}張り^か替え^じ時では、^{したじ}下地に^の残った^{ふる}古い^{うらう}裏打ち^{かみ}紙に^{みず}水を^{とふ}塗布し、^{のり}糊を^{もど}戻して^は剥がしますが、^{じぜん}事前に^{とふ}シーラー^{すいぶん}塗布^{せっこう}されて^{しんとう}いれば、^{しんとう}水分が^{石膏}石膏ボードに^{しんとう}浸透しにくくなり、^{はくりきぎょう}剥離^{ようい}作業が^{ようい}容易になります。

No. 43 : シーラーには、^{せいぶん}成分により^{さくさん}エチレン^{じゆしけい}酢酸^{じゆしけい}ビニル^{じゆしけい}樹脂系^{じゆしけい}のもの、^{じゆしけい}アクリル^{じゆしけい}樹脂系^{じゆしけい}のものなどがあります。また^{すいせい}水性^{かた}エマル^{ほか}ジョン^{ようざいがた}の^{かた}型^{ほか}の^{ようざいがた}他^{ようざいがた}、^{ようざいがた}溶剤^{ようざいがた}型^{ようざいがた}シーラーも^{ようざいがた}あります。

No. 44 : 次に、^{つぎ}乾式^{かんしきこうほう}工法^{けいさん}の^{ばん}珪酸^{けんきゆう}カルシウム^{ばん}板^{けんきゆう}を^{けんきゆう}研究^{けんきゆう}してみ^{けんきゆう}ましよう。この^{したじ}下地は^{きゆうすいせい}吸水^{きゆうすいせい}性が^{はげ}激しく、その^{せつちやくざい}ままでは、^{すいぶん}接着^{きゆうげき}剤^すの^こ水分^こを^は急^は激^はに^は吸^はい^は込^はむ^はため^は張^はれ^はませ^はん。そこで、^ず図^ずの^{とふ}ように、^{しより}シーラー^{しより}を^{しより}塗布^{しより}してから^{かべがみ}パテ^{かべがみ}処理^{かべがみ}をし、^{かべがみ}壁紙^{かべがみ}張^{かべがみ}り^{かべがみ}をし^{かべがみ}ます。

No. 45 : ^{ごうばんしたじ}合板^{もくざい}下地^{もくざい}では、^{かべがみ}木材^{かべがみ}の^{かべがみ}アク^{かべがみ}や^{かべがみ}ヤニ^{かべがみ}などにより、^{かべがみ}壁紙^{かべがみ}張^{かべがみ}り^{かべがみ}後^{かべがみ}、^{かべがみ}変^{かべがみ}色^{かべがみ}する^{かべがみ}場合^{かべがみ}があり^{かべがみ}ま^{かべがみ}す。事前に^{じぜん}アク^ど止^{こうか}め^{こうか}効果^{こうか}のある^{とふ}シーラー^{とふ}を^{しより}塗布^{しより}した^{しより}後^{しより}、^{かべがみ}パテ^{かべがみ}処理^{かべがみ}をし、^{かべがみ}壁紙^{かべがみ}張^{かべがみ}り^{かべがみ}をし^{かべがみ}ます。

ます。

No. 46 : 次に、壁張り工事で最も多い、石膏ボード下地を研究してみましょう。石膏ボードは、吸水性も理想的で、壁紙施工に最適な素材といえ、石膏ボード下地は、接着性、吸水性とも、壁紙施工に適しているのです。シーラー処理をする必要はありません。ただし、将来、張替をするときの剥がし易さを確保するため、シーラー塗布をしておきます。

No. 47 : ボード類の出隅は角がまっすぐに仕上がらない場合があるので、コーナー材やコーナーテープ等を挿入し、パテ処理をして仕上げます。

No. 48 : なし

No. 49 : テーパーボードの場合は、図のように、下パテ、ジョイントテープ、中パテ、上パテの順に下地造りを行います。近年はジョイントテープの代わりに、グラスファイバーテープを用い、その際は、下パテの前にテープを張り付け、パテ処理を行います。

No. 50 : 躯体に石膏ボードをGLボンドで直張りするGL工法下地は、湿式工法下地と同じで、十分乾燥させてから壁紙を張ることが必要です。乾燥不十分ではかびが生えて

折角の美しい仕上がりがそこなわれます。又、乾燥期間が十分に取れない場合は、石膏ボードに直接、防カビ材を塗布する等の対策が必要です。

No. 51 : 金属下地の場合は、合成樹脂系接着剤を捨て糊した後、パテ処理等で下地調整します。下地に錆が認められた場合は、事前に錆を落とし、防錆処理を行ってから捨て糊する必要があります。

No. 52 : 塗装面に壁紙を張る場合は、ペンキの塗膜の状態を見て、老化していたり、塗料がこすった手についたりする場合には、全部取り除かないと壁張りはできません。表面の状態がよい場合には、シーラー塗布、プライマー処理などで施工が可能になります。

No. 53 : 石膏ボード継目の不良箇所や、面の凹みなどを埋めて下地面を平滑に仕上げるパテ処理、サンダーがけの作業は、下地の状況と上張材料により工程が違ってきます。施工者は、この関係を確認して適切な下地調整をしなければなりません。

No. 54 : パテには半水石膏の水硬化を利用した反応硬化型と無期充填剤を合成樹脂で固める乾燥型があります。

No. 55 : 硬化型は水と混練りあわせ、一定時間で硬化します。やせも少なく、深穴用など厚付けにも適していますが、水で練ってから所定の時間内に施工し終わらないと、パテが固まって使えなくなります。

No. 56 : 乾燥型パテは、合成接着剤の配合も多く、下地への付着強さと表面の硬さが特徴です。硬化は乾燥に従い固まりますので、水で練ったものを空気に触れないよう密閉して保管すればペースト状が保てます。硬化はやや遅く、やせも少し多めです。

No. 57 : 下塗り・中塗りパテは、やせの少ない反応硬化型で、仕上げパテは現場状況や上張り材料に応じて反応硬化型と乾燥型を選定し使用するのが一般的です。

5. 張り替え

No. 58 : 次に、張り替えの場合について考えてみましょう。

No. 59 : 張り替えでは、室内の備品や器具類の片付け、移動が必要になります。お客様が大切にしている高価な家具や床などを汚したり、傷つけたりしないよう細心の注意を払い、しっかり養生しなければなりません。

No. 60 : ここで古い^{ふる}壁紙^{かべがみ}をはがします。はがした^{ざいりょう}材料^ちは散らかさないように、現場^{げんば}をきれい片付けながら^{かたづ}仕事^{しごと}することに注意^{ちゅうい}します。また、はがした^{あと}後の^{したじ}下地^{もんだい}に問題^{もんだい}がないかよく^よ気を付けて^き下さい^つ。

No. 61 : 剥がれなかった^は場合には、全面^{ばん}にシーラー^あや水^{みず}などを塗布^{とふ}し、浮いた^う箇所^{かしょ}を剥がし、パテ^{ぱて}で不陸^{ふりく}調整^{ちようせい}するのがよいでしょう。なお防火^{ぼうか}仕上げ^{しあ}の場合は全面^{ばん}剥がします^は。

6. 下張り^{したば}施工^{せこう}

No. 62 : 次に、下張り^{したば}について研究^{けんきゆう}してみましょう。

No. 63 : 例えば、ボード^{たど}の継ぎ目^{つぎめ}、下地^{したじ}の隙間^{すきま}、モルタル^{もるとる}のクラック^{くらっく}などは、壁紙^{かべがみ}に無理^{むり}な力^{ちから}が加わりやすい^{くわ}場所^{ばしょ}です。そこで、このような^{ぶぶん}部分^{ぶぶん}に、5～6センチ幅^{はば}の和紙^{わし}やクラフト紙^{くらふと}を張り^はます。これを「目張り^{めばり}」と言^いいます。最近^{さいきん}では、ジョイントテープ^{じょいんと}を使用^{しよう}しています。

No. 64 : また、このように^{ぜんめん}全面^{ぜんめん}にクラフト紙^{くらふと}や和紙^{わし}などを張^はっていくのは「べた張り^{べた}」です。

No. 65 : 半紙^{はんしだい}大^{さいだん}に裁断^{わし}した和紙^{しほう}の四方^{ていど}に3ミリ^{はば}程度の幅^{のりづ}で糊付け^{しゅうい}して周囲^{しゅうい}3センチから5センチ^にほど逃^{したじ}げて、下地^{ぜんめん}全面^{ぜんめん}に張^はるのは「袋張り^{ふくろば}」。これによって^{したじ}下地^{おうつ}の凹凸^{おうつ}をなくし、

仕上げをソフトなものにすることができます。

No. 66: 袋張りをした後、あるいは下地に直貼りする時など、上張りを突付けにするために、そのジョイント部を補強するのが「ジョイントベタ」。

No. 67: この他にも、「田の字」「みの張り」「二遍袋」「清張り」など、いろいろな下張りの方法があります。これらはいずれも上張りの精度を特に高めるのに用いる下地調整の手法です。壁紙の種類によって、べた張りとは袋張り工法が、防火仕様の下地として認められるようになりました。

7. 接着剤

No. 68: では、次に接着剤について研究してみましょう。

No. 69: JIS A 6922「壁紙施工用でん粉系接着剤」では、1種がでん粉のみ、2種が合成樹脂エマルジョンを配合したものです。

他に、ホルムアルデヒド発散量に関して国土交通大臣が認定した接着剤もあります。いずれも、ホルムアルデヒド発散量は微量で、使用面積制限を受けないエフフォースターのものです。

No. 70 : 壁張りするときの接着剤は、「でん粉系」と「酢ビ」又は「アクリル系重合樹脂」とを混合したもので、混合の比率は、下地、壁紙、環境等を考えてきめます。

8. 計画と段取り

No. 71 : 次に上張り作業の研究に進みますが、その前に大切な計画、段取りがあります。

例えば、作業台や糊付け機の位置、作業の分担、作業の手順、施工割り付け、これらの判断も施工者が本当にプロであるかどうかの別れ道になります。

No. 72 : ごらん下さい。これは一つの現場を1人で作業する場合の手順の流れです。

また糊付け機を使用した場合にはこの様になります。

9. 施工割付

No. 73 : こうした計画、段取り作業の中でもっとも重要なポイントは何と言っても施工割り付けです。

施工割り付けの良し悪しは、仕上がりに影響を与えるだけでなく、材料の使用量にも大いに関係してきます。

No. 74 : 例^{たと}え^ば、こ^れは^{てんじょう}天^{わりつ}井^{れい}の^{きぐ}割^{かんれん}付^{かんが}け^よの^{たんじゆん}例^で、器^き具^ぐな^どと^のの^{かんれん}関^{かんが}連^を考^えな^くて^よ良^い、単^{たんじゆん}純^にに^{ぜんたい}全^{きんとうわ}体^を均^{れい}等^に割^りに^した^例で^す。

No. 75 : ま^た、柄^{がら}の^{かんけい}関^{はば}係^を幅^をつ^める^こと^がで^きな^いよ^うな^ばい^ばう^な場^{ばい}合^あい^のこ^のよ^うに^{ちゆうしん}中^は心^から^は張^つつ^て両^{りようはし}端^{きんいつ}で^均一^{ちゆうせい}に^なる^よう^に調^ち整^せし^ます^す。

No. 76 : こ^れは^{たいしやう}対^{しょうめいきぐ}称^なに^{ばあい}照^{かべがみ}明^{さゆうたいしやう}器^を具^など^があ^る場^{ばい}合^あい^のこ^のよ^うに^わ壁^つ紙^をも^さ左^は右^は対^は称^にに^なる^よう^に割^わり^つ付^ける^こと^が原^{げんそく}則^です^す。

No. 77 : ま^た、こ^れは^{へきめん}壁^{ちゆうしん}面^{かんが}で^{ばあい}、ド^{とく}ア^{がら}を^{ばあい}中^は心^はに^は考^はへ^じた^め場^は合^はい^のこ^のよ^うに^は張^はり^はじ^めめ^と張^はり^はじ^まい^の問^{もんだい}題^{かんが}も^{わす}考^をへ^るこ^とを^わす^れな^いで^下さ^い。

No. 78 : こ^れは^{はしら}柱^{ちゆうしん}を^{かんが}中^{ばあい}心^{げんそく}に^{はしら}考^{しょうめん}へ^つた^め場^だ合^さい^のこ^のよ^うに^さ原^き則^をと^して^柱の^{しょうめん}正^つ面^めに^だ継^だぎ^さ目^をを^し出^すこ^とを^さ避^さけ[、]
左^さ右^{ゆう}の^{たいしやう}対^つ称^めに^{はい}継^{かんが}ぎ^は目^が入^はる^よう^に考^{かんが}へ^ます^{。もちろ}ん^{この}こ^の他^{ほか}に^{まど}も^{てんじょう}窓^や天^{てんじょう}井^{との}と^のの^{かんれん}関^{かんが}連^{ばあい}で^{げんば}考^{じょうきやう}へ^{ざいりやうすう}た^あ場^あ合^がな^ど、現^{げんば}場^{じょうきやう}の^{ざいりやうすう}状^あ況^とと^あ材^あ料^あ数^にに^あ合^あわ^せた^いろ^いろ^なテ^{テク}ク^ニッ^クが^あ考^{かんが}え^られ^ます^す。

No. 79 : こ^れは^わ割^つり^わ付^るけ^{れい}の^{悪い}悪^い例^です^す。

No. 80 : これも避けたい悪い割付け施工例です。

No. 81 : このような割付けも感心できません。こうした施工割り付け計画の善し悪しは、最後に建物の商品価値を決めますから、良い割付けを心掛けたいと思います。

No. 82 : ボード類下地の割り付けは、ボードのジョイントと壁紙のジョイントが重ならないようにします。壁紙のジョイント部での支障を防ぐための配慮です。また、入隅は壁紙を張り回さないで、少し長めにきりつけて、コークを注入して納めるようにします。

10. 目地の収まり

No. 83 : さて、ここで上張りに進む前に、ほつれや剥離のない美しい仕上がりを長く保つための手法として、目地の納まりを考慮しておきたいと思います。

No. 84 : たとえば天井と壁の関係でみると、このような壁目地と

No. 85 : 天井目地とがあります。天井目地では、天井に使用する材料で張るのが原則です。

No. 86: 織物のジョイント部のほつれを防ぐ最適な方法は、この差込み目地仕上げです。目地の寸法は布地の厚さにもよりますが、約2～3ミリ。俗に「ねむり目地」とも言われます。

No. 87: 目地底まで布地を巻き込むように仕上げる方法を「目透かし」と言っています。「目地」の深さは材料の厚さにもよりますが、6ミリ以上を必要とします。また折り曲げにくい布地やビニルレザーなどの場合、目地棒押え仕上げをおこないます。

No. 88: 建具張りは、建具の種類によっていろいろな施工方法があります。これは代表的な引き違い戸、開き戸で、しかも面違いの納まりの例です。

No. 89: この他にも、このようなさまざまな建具張りの方法があります。

No. 90: また、コーナーの見切り部分は、原則としてこのように処理します。

1.1. 採寸と裁断

No. 91: さて、経験を積んだ技術者なら誰でも、建物が必ずしも図面通りの寸法でないことを知っていると思います。施工現場では、いかなる場合にも正確に採寸をしなければ

なりません。

No. 92: このように壁面の高さ、幅を実測し、材料の使用数量を計算して下さい。この場合、柄物は柄合わせに必要な余分をみておくことを忘れないでください。

No. 93: 採寸を間違えると、高価な材料を無駄にするだけでなく、時間的にもロスになりますので、細心の注意が必要です。この時、特に施工割り付け計画と合わせて、ジョイント部分の配分に注意をします。

No. 94: 裁断の前に、張る方向と長さを決めてください。無地もの場合、壁は5センチ、天井は10センチ程度長めに採ります。材料によっては、糊付けした時、伸縮する場合がありますので、注意してください。

No. 95: 柄物を裁断する場合は、柄の納まりを中心に、ロスを少なくすることを心掛けます。柄のリピートの起点は、壁の上端に現れるようにするのが一般的ですが、現場によっては、上下左右均等に納める方法もあります。

No. 96: 柄物でも特に織物の場合、実際に柄に合わせて切っていくと、ごらんのようになんぞれ長さが違ってくるのが普通です。これをこのままの順序で張ってしまうと、柄合わせが非常に難しくなります。

No. 97 : これをこのように^{なが}長さ^あに合わせて^{じゅんばん}順番^{なら}に並べかえてから、オープンタイムで^{ちょうせつ}調節しながら^は張っていくと、^{ひかくてきくる}比較的^{すく}狂いの少ない^{しあ}仕上げにすることができます。

No. 98 : 特に^{とく}織物^{おりもの}壁紙^{かべがみ}の場合、^{ぼあい}裁ち方^たが^{かた}問題^{もんだい}です。^{はばたち}幅裁ち^{うらうちかみ}は、^{おりもの}裏打ち紙^{がら}や^{くるい}織物の柄^{がら}の^{くるい}狂いを^{がら}みながら、^あ柄^{へいこう}に合わせて^き平行^きに^め切るように^{あら}します。また、^{ざいりょう}目の荒い^{ざいりょう}材料^{ざいりょう}などは^{いと}タテ^そ系^たに沿って^たハサミ^た裁ち^たを^そします。

No. 99 : なお、^{ざいりょう}材料^{さいだん}を^{とき}裁断^{しやう}する時^{おりのもの}ほつれ^きが生^{くち}じやすい^{かべがみせこうよう}織物^{ぶん}は、^ぶ切り口^ぶを^ぶ壁紙^ぶ施工^ぶ用^ぶで^ぶん粉^ぶ系^ぶ接着^ぶ剤^ぶを^ぶ薄^ぶめた^ぶもの^ぶでの^ぶり^ぶ止^ぶめ^ぶし^ぶて^ぶく^ぶだ^ぶさ^ぶい。

No. 100 : また、^{ぬの}ほつれ^{あそ}やすい^{いと}布^きは、^め遊び^{ぶぶん}糸^{ぶぶん}のある^{ぶぶん}ところ^{ぶぶん}で^{ぶぶん}切^{ぶぶん}らず、^{ぶぶん}なるべく^{ぶぶん}目^{ぶぶん}の^{ぶぶん}つ^{ぶぶん}んだ^{ぶぶん}部分^{ぶぶん}で^{ぶぶん}裁^{ぶぶん}つ^{ぶぶん}ように^{ぶぶん}して^{ぶぶん}く^{ぶぶん}だ^{ぶぶん}さ^{ぶぶん}い。

No. 101 : 次に、^{つぎ}張^はる^{ほうこう}方向^{じゅんじよ}と^{かんが}順^は序^{ほうこう}を^は考^{ほうこう}えて^{てんじょう}み^{なが}ま^{ほうこう}し^はょう。張^はる^{ほうこう}方向^{てんじょう}は^{なが}天^{ほうこう}井^はは^は長^は手^は方向^はに^は張^はる^はの^はが^は普通^はですが、^{ふつう}光^{ひかり}の^{はい}入^{ほうこう}る^{おな}方向^{なが}と^{しあ}同^{しあ}じ^{しあ}流^{しあ}れ^{しあ}に^{しあ}す^{しあ}ると^{しあ}きれ^{しあ}いな^{しあ}仕^{しあ}上^{しあ}げ^{しあ}に^{しあ}な^{しあ}り^{しあ}ま^{しあ}す。

また、^{こうせん}光^{はい}線^{かた}の^{どうていど}入^{ぼあい}り^い方^{ぐち}が^{はんたいほうこう}同^は程^は度^だの^は場^は合^だには、^は入^はり^は口^はの^は反^は対^は方^は向^はか^はら^は張^はり^は出^はす^はの^はが^はよ^はい^は方法^はです。

No. 102: さて、これで私^{わたし}たちは、上張り^{うわば}作業^{さぎょう}を始める^{はじ}前に必要な準備^{まへ ひつよう}を完了^{じゆんび}しました。後半^{かんりよう}
は、引き続いて材料^{ざいりよう}ごとの上張り^{うわばり}を中心^{ちゆうしん}とする施工技術^{せこうぎじゆつ}について研究^{けんきゆう}してみたい
と思^{おも}います。

No. 103: 壁張りの技法・後編

この映像^{えいぞう}は、壁張り^{かべば}業務^{ぎほう}に従事^{こうへん}する私^{わたし}たちが、プロとしての壁張り^{かべば}技法^{ぎほう}を研究^{けんきゆう}す
るために製作^{せいさく}したものです。前編^{ぜんぺん}に引き続いて、上張り^{うわば}施工技法^{せこうぎほう}からみていきたいと
思^{おも}います。

1 2. 上張り施工

No. 104: まず、現在^{げんざい}もっとも多く使^{おお}われている、標準^{おお}的な紙裏^{つか}ビニル^{ひょうじゆんてき}壁紙^{かみうら}の施工^{かべがみ}を研究^{せこう}し
てみましょう。

No. 105: 直張り^{じかば}する場^{ばあい}合^{とく}には、特^{したじ}に下地^{いちどてんけん}をもう一度^て点検^{かん}してください。手^てで感^{かん}じるほこりや
凹凸^{おうとつ}は、すべてサンドペーパー^{へいかつ}で平滑^{つか}にする。あるいはこのようにパテベラ^{つか}を使^{つか}って
表面^{ひょうめん}を平^{たい}らにします。

No. 106: 無地物^{むじもの}の材料^{ざいりよう}は、スミ打ち^うをして寸法^{すんぽう}を出^だします。このように中央^{ちゆうおうぶぶん}部分^{すんぽう}でも寸法

かくにん
を確認することを^{わす}忘れないでください。また、^た裁ち方^{かた}は、^{うちがわ}スミの内側^{せいかく}で^き正確^おに切り落
とします。

No. 107: また、^{がらもの}柄物^{いちまい}は、^{がらあ}一枚^たずつ柄合わせ^たをしながら^た裁^たっていきます。

No. 108: ^{はばた}幅^{ざいりょう}裁^{じょうげ}ちした^{まちが}材料^{うら}は、^{しるし}上下^よを^よ間違^よえないように、^{うら}裏^{しるし}に^ようすく^よ印^よをつけて^よおく^よと^よ良^よい
でしょう。

No. 109: ここで、このように^{はばあ}幅^はに^だ合^{すいちよくせん}わせて、^だ張^だり^だ出^だしの^だ垂^だ直^だ線^だを出^だして^だく^ださい。

No. 110: さて、これは^{ひょうじゆんてき}標^{せつちやくざい}準^{はいごうひょう}的な^{きじゆん}接^{ざいりょう}着^{したじ}剤^あの^あ配^あ合^あ表^あです。これを^あ基^あ準^あに、^あ材^あ料^あや^あ下^あ地^あに^あ合^あわ
^{せつちやくざい}せた^{しやう}接^{しやう}着^{しやう}剤^{しやう}を^{しやう}使^{しやう}用^{しやう}して^{しやう}く^ださい。

No. 111: ^{まわ}廻^{のり}り^{のりぎ}糊^よは、^よ糊^よ切^よれ^よの^よ良^よい^よハ^よケ^よで、^よ6^よセ^よン^よチ^よほ^よど^よの^よ幅^よに、^よた^よめ^よな^よい^よよ^よう^よに、^よし^よか^よも^よ切
^{くちいっばい}り^{とき}口^{のり}一^{おもて}杯^でま^{ちゆうい}で^{ちゆうい}つ^{ちゆうい}け^{ちゆうい}ます。この^{ちゆうい}時^{ちゆうい}、^{ちゆうい}糊^{ちゆうい}が^{ちゆうい}表^{ちゆうい}に^{ちゆうい}出^{ちゆうい}な^{ちゆうい}い^{ちゆうい}よ^{ちゆうい}う^{ちゆうい}に^{ちゆうい}注^{ちゆうい}意^{ちゆうい}して^{ちゆうい}く^ださい。

No. 112: ^{なかのり}中^{のり}糊^{ふく}は、^{つか}た^{へいきん}っ^{へいきん}ぷ^{へいきん}り^{へいきん}糊^{へいきん}を^{へいきん}含^{へいきん}む^{へいきん}ハ^{へいきん}ケ^{へいきん}を^{へいきん}使^{へいきん}い、^{へいきん}平^{へいきん}均^{へいきん}に^{へいきん}ム^{へいきん}ラ^{へいきん}な^{へいきん}く、^{へいきん}手^{へいきん}早^{へいきん}く^{へいきん}塗^{へいきん}り^{へいきん}ま^{へいきん}す。

No. 113: ^{のりづ}糊^{ざいりょう}付^{かる}け^{かる}した^{かる}材^{ざいりょう}料^{ざいりょう}は、^{かる}軽^{かる}く^{かる}た^{かる}た^{かる}み^{かる}オ^{ざいりょう}ー^{ざいりょう}プ^{ざいりょう}ン^{ざいりょう}タ^{ざいりょう}イ^{ざいりょう}ム^{ざいりょう}を^{ざいりょう}と^{ざいりょう}り^{ざいりょう}ま^{ざいりょう}す。オ^{ざいりょう}ー^{ざいりょう}プ^{ざいりょう}ン^{ざいりょう}タ^{ざいりょう}イ^{ざいりょう}ム^{ざいりょう}は^{ざいりょう}材^{ざいりょう}料^{ざいりょう}
^{きせつ}や^{げんば}季^{かんそうど}節^{かんそうど}や^{ちが}現^{いっぽんてき}場^{いっぽんてき}の^{いっぽんてき}乾^{いっぽんてき}燥^{いっぽんてき}度^{いっぽんてき}によ^{いっぽんてき}っ^{いっぽんてき}て^{いっぽんてき}も^{いっぽんてき}違^{いっぽんてき}い^{いっぽんてき}ま^{いっぽんてき}す^{いっぽんてき}が、^{いっぽんてき}一^{いっぽんてき}般^{いっぽんてき}的^{いっぽんてき}に^{いっぽんてき}は^{いっぽんてき}1^{いっぽんてき}0^{いっぽんてき}分^{いっぽんてき}か^{いっぽんてき}ら^{いっぽんてき}2^{いっぽんてき}0^{いっぽんてき}分^{いっぽんてき}が^{いっぽんてき}目^{いっぽんてき}安^{いっぽんてき}で

す。乾燥を防ぎ最適なオープンタイムをとるには、糊付け後、養生袋に入れておく
とよいでしょう。このとき、材料によってはたたみじわが出る場合もあるので注意
しましょう。

No. 114: 材料はこのように持ち、まず頭決めをします。この時、壁紙を横に引張って伸ば
してしまわないように気をつけてください。

No. 115: まず、頭の方を30センチぐらい軽く押さえて、下が垂直線に合っているか良く
確かめてください。

No. 116: 平均になでて、しわを伸ばしますが、なで方はなるべくタテ方向にします。あまり
横に力を入れ過ぎると、ジョイントが合わなくなったり、すき間が出来るとにな
ります。

No. 117: 切り付ける部分は、このようにヘラで良く折り目を付けます。

No. 118: 切り付けは、やや長めに切って、これを戻して納めるように行います。

No. 119: 同じ切り付けでも、このように厚手のために一度で正確に切ることが出来ないよう

ざいりょう ばあい
な材料の場合、はじめこのように切り付け、

No. 120: もう一度このように切って納めるようにすると、きれいに仕上がります。

No. 121: 切った後は、ヘラできちんと押さえ付けます。

No. 122: 二巾目の壁紙を張る際には、特にジョイントに注意が必要になります。ジョイント
には、突き付けと重ね裁ちの二つの方法があります。

No. 123: 突き付けの場合、ジョイントは少し重ねておき、なで終わってからその重ねた部分
を戻すようにしてローラーをかけると、後で隙間ができるようなことを防げます。ロ
ーラーのかけ方が悪いと艶が出たり、エンボスが消えたり、糊がはみ出したりします
から注意してください。

No. 124: 重ね裁ちは特に注意してください。下地がこのような石膏ボードなどの場合は、小
さなキズでも壁面が割れ、壁全体に影響してきますから、原則として刃物を直接
下地に当てないようにします。

No. 125: 重ね裁ちをしなければならない場合は、下敷きを当て裁つようにしましょう。

No. 126: 上張りや廻りについた糊は、早めに、きれいな水で絞った布で良く拭き取って下さい。はみ出した糊をそのままにしておくと、後でシミやヨゴレになってしまいます。

No. 127: また、糊を付けて裁ち落とした材料は、必ず内側を合わせて片付けるようにします。

No. 128: 糊の汚れで特に注意したいのはこのような現場です。家具や練付け壁などは、後で拭き取るより、このように始めから糊を付けない養生が必要です。

No. 129: ここでジョイントについてもう少し考えてみましょう。壁紙には、方向を示す天地マークや柄合わせの位置を示すジョイントマークなどがついています。無地、柄物いずれもこのマークを参考に出来ますが、

No. 130: 最終的な柄合わせは、表面からみて合っていることを確認して張ることが大切です。

No. 131: 次に、壁紙の色違いを防ぐ方法を考えてみましょう。壁紙の幅裁ちは、色・柄などにムラがない有効幅だけを使うように裁ち、ムラなどの多いヘリの部分は裁ち捨てま

す。

No. 132: また、^{ほそはば}細幅ものを^あはぎ合わせる^{ばあい}場合などは、^{かべがみ}ジョイントは^{はし}壁紙の^{ぶぶんどうし}端の部分同士で
^あ合わせ、^{はし}端と^{ちゅうおうぶ}中央部での^あはぎ合わせは^{いろちが}色違いになりやすいので^さ避けてください。

No. 133: ^{いちぶ}一部の^{ざいりょう}材料を除き、^{のぞ}壁紙の^{かべがみ}天地を^{てんち}逆さまに^{さか}張り合わせたり、^は一部を^あ横張りにしては
^いちぶ^{よこば}を横張りにしては
^あぎ合わせたりすると、^{いろちが}色違いが^で出て^{おさ}納まらない^{ばあい}場合があります。

No. 134: ^{ぶぶん}コーナー部分には、^{ざい}あらかじめ^{じゅうてん}コーキング剤を^{たいせつ}充填しておくことが大切です。

No. 135: また、^なクレームの^{ていねい}無い丁寧な^{しあ}仕上げを^{めざ}目指して、^{かべがみ}壁紙の^{ぶぶん}ジョイン部分や、^で出ずみ、
^いりずみなどに^す捨て^{のり}糊することも^よ良い^{ほうほう}方法です。

No. 136: ^{つぎ}次に、^{てんじょう}天井の^{せこう}施工を^{かんが}考えてみましょう。まず、^{しょうめいきぐ}証明器具などとの^{かんれん}関連を^{かんが}考えな
^がら、^{せこうわ}施工割りに^つ従って^{したが}天井面に^{てんじょうめん}スミを^う打ち、^は張り出しを^だ決め^きます。この^{とき}時の
^は張り出しは、^だ光線の^{こうせん}強い方から^{つよ}張り始める^{ほう}方法と、^は器具などとの^{はし}関連で^{ほうほう}センターから
^は張り出す^だ方法があります。

No. 137: ^は張り出しは^だあまり^{おお}大きく^{ひろ}広げないで^い位置を^あ合わせ、^{へいきん}平均になでるように^なします。

お、押え木は最後まで持ち続けるようにします。

部屋の天井、壁などに壁紙を張ることにより、その空間は、たちまち壁紙が表現するデザインの世界に変貌します。